

### Ⅲ 調査の集計結果

#### 1 地震や防災対策について

##### (1) 南海地震のような大地震が起こった場合に心配なこと

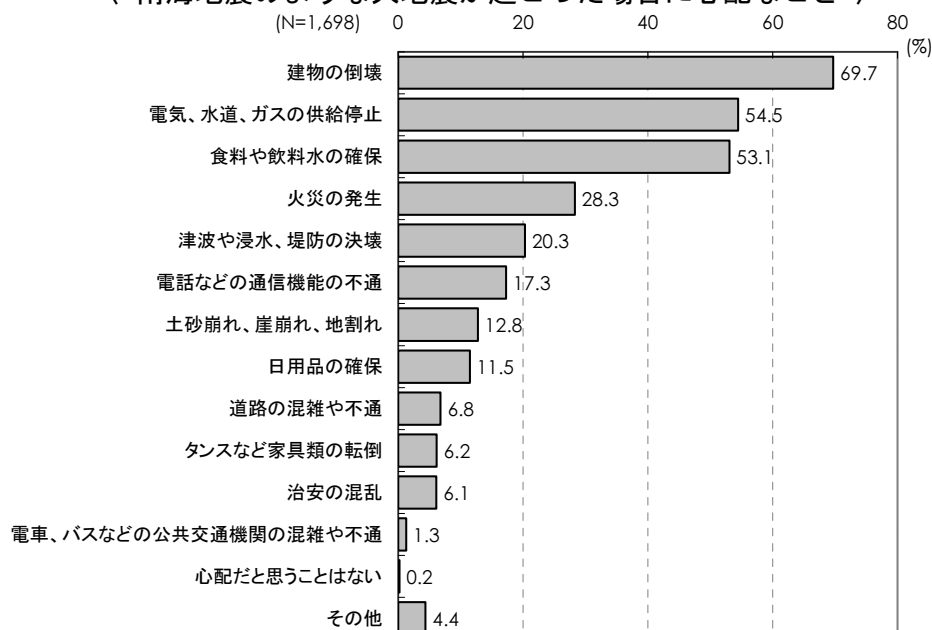
問1 あなたは、もし南海地震のような大地震が起こった場合、どのようなことが心配ですか。次の中から3つまで選んでください。

[回答者数=1,698]

1 建物の倒壊	69.7%
2 電気、水道、ガスの供給停止	54.5%
3 食料や飲料水の確保	53.1%
4 火災の発生	28.3%
5 津波や浸水、堤防の決壊	20.3%
6 電話などの通信機能の不通	17.3%
7 土砂崩れ、崖崩れ、地割れ	12.8%
8 日用品の確保	11.5%
9 道路の混雑や不通	6.8%
10 タンスなど家具類の転倒	6.2%
11 治安の混乱	6.1%
12 電車、バスなどの公共交通機関の混雑や不通	1.3%
13 心配だと思わない	0.2%
14 その他	4.4%

南海地震のような大地震が起こった場合に心配なことについては、「建物の倒壊」が69.7%と7割近くで最も高く、次いで「電気、水道、ガスの供給停止」が54.5%、「食料や飲料水の確保」が53.1%などとなっている。

〈 南海地震のような大地震が起こった場合に心配なこと 〉



性別にみると、男女とも「建物の倒壊」が最も高く、その比率は『男性』が71.5%、『女性』が68.4%で、これに「電気、水道、ガスの供給停止」が『男性』が54.4%、『女性』が54.8%で続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』では「建物の倒壊」と「食料や飲料水の確保」が6割を超えて最も高く、そのほかの年齢では「建物の倒壊」が6割を超えて最も高くなっている。これに、『20～29歳』、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「電気、水道、ガスの供給停止」が、『30～39歳』、『40～49歳』では「食料や飲料水の確保」が続いている。

職業別にみると、いずれも「建物の倒壊」が6割を超えて最も高く、これに、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「食料や飲料水の確保」が、そのほかの職業では「電気、水道、ガスの供給停止」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「建物の倒壊」が6割を超えて最も高く、特に『西讃圏域』では75.8%となっている。これに、『東讃圏域』では「食料や飲料水の確保」が、『小豆圏域』では「津波や浸水、堤防の決壊」が、そのほかの圏域では「電気、水道、ガスの供給停止」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「建物の倒壊」が6割を超えて最も高く、特に『20年以上』では71.1%となっている。これに、『20年以上』では「電気、水道、ガスの供給停止」が、そのほかでは「食料や飲料水の確保」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
南海地震のような大地震が起こった場合に心配なこと

(単位：%)

		回答者数(人)	建物の倒壊	電気、水道、ガスの供給停止	食料や飲料水の確保	火災の発生	津波や浸水、堤防の決壊	電話などの通信機能の不通	土砂崩れ、崖崩れ、地割れ	日用品の確保	道路の混雑や不通	タンスなど家具類の転倒	治安の混乱	電車、バスなどの公共交通機関の混雑や不通	心配だと思うことはない	その他
全 体		1,698	69.7	54.5	53.1	28.3	20.3	17.3	12.8	11.5	6.8	6.2	6.1	1.3	0.2	4.4
性別	男性	758	71.5	54.4	52.6	29.0	18.5	15.2	12.3	9.1	7.4	7.3	6.3	2.0	0.1	4.1
	女性	910	68.4	54.8	53.6	27.7	21.8	19.2	13.3	13.6	6.5	5.4	6.0	0.8	0.1	4.6
年齢別	20～29 歳	123	66.7	45.5	66.7	19.5	17.1	24.4	12.2	13.8	8.1	3.3	8.9	0.8	0.0	8.9
	30～39 歳	223	67.7	51.1	64.1	20.6	18.8	20.2	7.2	17.9	4.0	5.4	7.6	1.3	0.0	9.0
	40～49 歳	249	70.3	50.2	58.6	28.5	25.3	13.7	12.4	11.6	6.4	3.6	8.0	0.0	0.0	6.4
	50～59 歳	262	70.6	53.1	46.2	29.8	20.6	16.8	11.8	13.0	6.1	6.5	6.9	1.5	0.4	3.8
	60～69 歳	390	73.3	60.0	49.2	28.7	21.8	16.4	14.9	9.7	6.9	6.2	5.6	0.5	0.3	2.1
	70 歳以上	423	67.6	57.9	48.0	33.6	17.0	17.5	15.1	8.5	8.5	9.0	3.5	2.6	0.0	1.9
職業別	農林漁業	126	73.8	57.9	42.9	27.0	11.1	19.0	21.4	9.5	12.7	7.9	1.6	0.8	0.0	3.2
	商工業、サービス業、自由業など	208	68.8	52.9	49.0	30.3	24.5	15.9	13.0	7.7	7.2	2.4	10.1	1.4	0.5	6.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	618	71.2	52.6	58.6	28.2	18.8	15.7	10.8	12.8	6.0	4.9	7.8	0.8	0.2	5.3
	主婦・主夫	390	68.5	55.9	51.3	28.2	23.8	21.0	12.8	13.6	5.4	7.4	4.6	0.8	0.0	2.6
	無職	310	68.7	56.1	51.9	28.1	18.7	16.1	13.9	10.3	8.4	9.4	3.5	2.9	0.0	3.2
圏域別	高松圏域	825	68.1	57.0	53.2	29.5	17.6	18.5	14.9	10.7	6.5	6.7	6.5	1.5	0.2	4.1
	東讃圏域	150	69.3	47.3	63.3	20.0	26.0	16.0	12.0	11.3	6.7	5.3	4.7	1.3	0.0	5.3
	小豆圏域	59	69.5	47.5	33.9	25.4	49.2	18.6	11.9	11.9	3.4	5.1	0.0	0.0	1.7	5.1
	中讃圏域	428	69.6	54.0	53.3	29.7	18.9	17.1	9.3	14.0	7.5	6.1	7.9	1.2	0.0	4.2
	西讃圏域	236	75.8	53.0	50.4	28.0	21.6	14.0	12.7	9.7	7.6	5.5	3.8	1.3	0.0	5.1
居住年数別	3 年未満	108	64.8	55.6	63.0	25.0	19.4	20.4	8.3	16.7	0.9	4.6	8.3	0.0	0.0	9.3
	3 年以上～10 年未満	232	65.9	55.2	56.5	21.1	24.1	18.1	9.1	14.7	7.3	3.9	6.9	0.9	0.0	7.3
	10 年以上～20 年未満	255	70.2	51.0	56.1	31.0	22.7	18.8	8.6	9.8	8.2	6.3	7.1	0.8	0.0	4.7
	20 年以上	1,076	71.1	55.3	50.7	29.6	18.8	16.6	15.1	10.9	7.1	6.9	5.6	1.6	0.2	3.2

## (2) 南海地震に備えてとっている対策

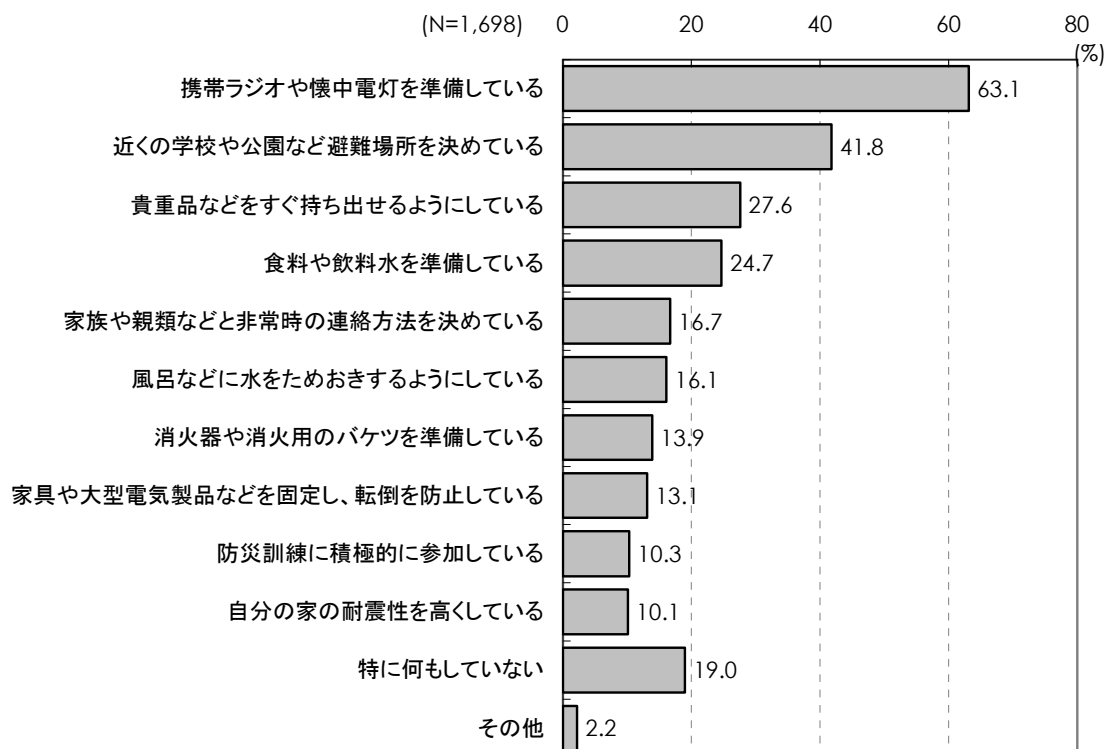
問2 あなたは、南海地震に備えて、どのような対策をとっていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

[回答者数=1,698]

1 携帯ラジオや懐中電灯を準備している	63.1%
2 近くの学校や公園など避難場所を決めている	41.8%
3 貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	27.6%
4 食料や飲料水を準備している	24.7%
5 家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	16.7%
6 風呂などに水をためおきするようになっている	16.1%
7 消火器や消火用のバケツを準備している	13.9%
8 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	13.1%
9 防災訓練に積極的に参加している	10.3%
10 自分の家の耐震性を高くしている	10.1%
11 特に何もしていない	19.0%
12 その他	2.2%

南海地震に備えてとっている対策については、「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が63.1%と6割を超え最も高く、次いで「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が41.8%、「貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている」が27.6%、「食料や飲料水を準備している」が24.7%などとなっている。また、「特に何もしていない」が19.0%となっている。

### 〈 南海地震に備えてとっている対策 〉



性別にみると、男女とも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が6割を超えて最も高く、その比率は『男性』が63.7%、『女性』が62.5%で、これに「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が『男性』が40.1%、『女性』が43.4%が続いている。

年齢別にみると、ほとんどの年齢で「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も高くなっているのに対し、『20～29歳』では「特に何もしていない」が43.1%と4割を超えている。これに、『20～29歳』では「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が、『70歳以上』では「貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている」が、そのほかの年齢では「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が続いている。

職業別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も高く、特に『農林漁業』では74.6%となっており、これに、いずれも「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も高く、特に『東讚圏域』では68.0%となっており、これに、いずれも「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」が最も高く、特に『20年以上』では68.9%となっており、これに、いずれも「近くの学校や公園など避難場所を決めている」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
南海地震に備えてとっている対策

(単位：%)

		回答者数(人)	携帯ラジオや懐中電灯を準備している	近くの学校や公園など避難場所を決めている	貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	食料や飲料水を準備している	家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	風呂などに水をためおきするようになっている	消火器や消火用のバケツを準備している	家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	防災訓練に積極的に参加している	自分の家の耐震性を高くしている	特に何もしていない	その他
全体		1,698	63.1	41.8	27.6	24.7	16.7	16.1	13.9	13.1	10.3	10.1	19.0	2.2
性別	男性	758	63.7	40.1	25.5	23.4	14.1	12.4	14.2	11.5	9.6	10.9	19.8	2.0
	女性	910	62.5	43.4	28.9	25.7	18.5	19.3	13.5	14.3	10.7	9.5	18.5	2.2
年齢別	20～29歳	123	28.5	23.6	18.7	8.1	9.8	5.7	5.7	8.9	0.0	8.9	43.1	0.8
	30～39歳	223	49.8	40.4	18.8	25.6	13.9	12.1	3.6	11.7	5.4	10.3	22.0	1.8
	40～49歳	249	59.4	41.4	17.3	23.3	13.7	10.4	9.2	12.4	5.6	12.0	18.9	2.0
	50～59歳	262	56.5	37.4	21.8	25.6	15.6	17.2	12.2	8.8	6.1	10.3	23.3	2.3
	60～69歳	390	71.5	49.0	26.4	25.9	15.1	18.7	20.3	13.6	15.9	9.2	14.4	2.3
	70歳以上	423	78.5	44.2	44.7	28.4	23.2	22.2	19.6	17.3	16.1	9.9	12.5	2.6
職業別	農林漁業	126	74.6	34.9	31.0	28.6	15.9	15.9	27.0	11.1	14.3	15.1	15.9	0.8
	商工業、サービス業、自由業など	208	63.0	46.2	24.0	22.1	17.8	14.4	17.3	10.6	11.1	8.2	20.2	3.4
	会社、商店、官公庁などに勤務	618	53.2	39.5	18.3	21.2	13.9	11.3	7.1	11.8	6.6	10.2	23.1	1.3
	主婦・主夫	390	69.7	45.6	35.4	29.0	19.0	22.3	18.2	16.9	14.4	9.2	14.1	3.3
	無職	310	69.0	42.6	34.8	25.8	18.1	20.0	15.5	12.3	10.0	10.0	18.7	1.9
圏域別	高松圏域	825	65.1	43.3	27.0	25.3	16.5	17.5	13.1	14.7	9.3	9.8	17.2	1.7
	東讃圏域	150	68.0	40.0	34.7	24.0	17.3	14.7	14.0	12.7	28.0	8.7	17.3	1.3
	小豆圏域	59	57.6	40.7	27.1	13.6	15.3	13.6	11.9	10.2	1.7	5.1	22.0	5.1
	中讃圏域	428	61.4	43.2	29.9	26.9	19.4	16.4	13.6	12.4	7.7	10.7	19.2	3.5
	西讃圏域	236	57.6	35.6	20.8	21.6	12.3	12.3	17.8	10.2	9.3	11.9	25.4	1.3
居住年数別	3年未満	108	51.9	30.6	17.6	16.7	11.1	10.2	4.6	17.6	2.8	13.9	26.9	0.9
	3年以上～10年未満	232	51.3	40.5	22.0	25.9	14.2	11.6	8.2	9.9	3.9	9.9	20.7	2.2
	10年以上～20年未満	255	54.5	40.8	21.6	28.2	14.5	13.7	9.0	11.8	5.9	9.4	24.3	1.6
	20年以上	1,076	68.9	43.5	30.9	24.4	18.1	18.5	17.3	13.6	13.4	9.9	16.7	2.4

### (3) 南海地震に備えて、今後とろうと考えている対策

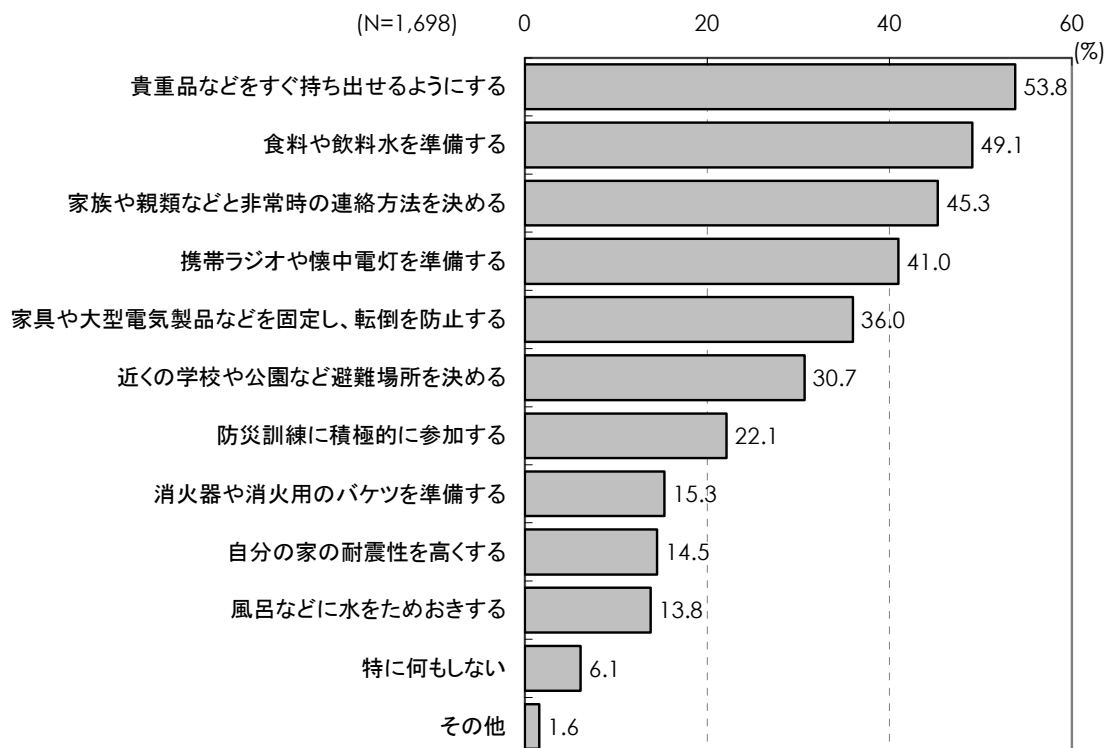
問3 あなたは、南海地震に備えて、今度どのような対策をとろうと考えていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

[回答者数=1,698]

1 貴重品などをすぐ持ち出せるようにする	53.8%
2 食料や飲料水を準備する	49.1%
3 家族や親類などと非常時の連絡方法を定める	45.3%
4 携帯ラジオや懐中電灯を準備する	41.0%
5 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止する	36.0%
6 近くの学校や公園など避難場所を決める	30.7%
7 防災訓練に積極的に参加する	22.1%
8 消火器や消火用のバケツを準備する	15.3%
9 自分の家の耐震性を高くする	14.5%
10 風呂などに水をためおきする	13.8%
11 特に何もしない	6.1%
12 その他	1.6%

南海地震に備えて、今後とろうと考えている対策については、「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」が53.8%と半数を超え最も高く、次いで「食料や飲料水を準備する」が49.1%、「家族や親類などと非常時の連絡方法を定める」が45.3%、「携帯ラジオや懐中電灯を準備する」が41.0%などとなっている。

#### 〈 南海地震に備えて、今後とろうと考えている対策 〉



性別にみると、男女とも「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」が最も高く、その比率は『男性』が48.4%、『女性』が58.2%で、これに「食料や飲料水を準備する」が『男性』が43.3%、『女性』が54.4%で続いている。

年齢別にみると、ほとんどの年齢で「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」が最も高くなっているのに対し、『30～39歳』では「家族や親類などと非常時の連絡方法を決める」が48.4%となっている。これに、『50～59歳』では「家族や親類などと非常時の連絡方法を決める」が、『70歳以上』では「携帯ラジオや懐中電灯を準備する」が、そのほかの年齢では「食料や飲料水を準備する」が続いている。

職業別にみると、いずれも「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」が半数を超えて最も高く、特に『主婦・主夫』では59.5%となっており、これに、いずれも「食料や飲料水を準備する」が続いている。

圏域別にみると、『東讃圏域』では「食料や飲料水を準備する」が、『小豆圏域』では「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」と「携帯ラジオや懐中電灯を準備する」が、そのほかの圏域では「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」が最も高くなっている。これに、『東讃圏域』では「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」が、『西讃圏域』では「家族や親類などと非常時の連絡方法を決める」が、そのほかの圏域では「食料や飲料水を準備する」が続いている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「食料や飲料水を準備する」が、『3年以上～10年未満』では「家族や親類などと非常時の連絡方法を決める」が、そのほかでは「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」が最も高くなっている。これに、『3年未満』では「貴重品などをすぐ持ち出せるようにする」が、『10年以上～20年未満』では「家族や親類などと非常時の連絡方法を決める」が、そのほかでは「食料や飲料水を準備する」が続いている。



性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
南海地震に備えて、今後とろうと考えている対策

(単位：%)

		回答者数(人)	貴重品などをすぐ持ち出せるようにする	食料や飲料水を準備する	家族や親類などと非常時の連絡方法を決める	携帯ラジオや懐中電灯を準備する	家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止する	近くの学校や公園など避難場所を決める	防災訓練に積極的に参加する	消火器や消火用のバケツを準備する	自分の家の耐震性を高くする	風呂などに水をためおきする	特に何もしない	その他
全体		1,698	53.8	49.1	45.3	41.0	36.0	30.7	22.1	15.3	14.5	13.8	6.1	1.6
性別	男性	758	48.4	43.3	40.5	38.3	35.4	29.6	22.0	14.9	15.2	11.5	7.9	1.6
	女性	910	58.2	54.4	49.7	43.1	37.0	31.8	22.2	15.5	14.2	15.7	4.3	1.6
年齢別	20～29歳	123	52.0	51.2	45.5	42.3	23.6	28.5	8.9	4.9	13.0	0.0	5.7	0.0
	30～39歳	223	44.4	46.2	48.4	32.7	31.4	24.7	13.0	8.5	9.4	5.8	7.6	2.2
	40～49歳	249	54.6	53.8	47.8	33.7	36.1	25.7	13.3	10.8	8.0	7.2	4.0	1.6
	50～59歳	262	49.2	43.9	46.9	33.6	35.9	26.3	21.4	14.1	14.9	11.5	9.5	1.9
	60～69歳	390	55.1	46.7	43.8	38.7	39.7	31.0	28.7	15.4	18.5	16.9	6.2	1.0
	70歳以上	423	60.5	53.9	43.3	55.6	39.5	40.0	31.0	25.3	17.7	24.6	4.0	2.4
職業別	農林漁業	126	54.8	46.0	44.4	45.2	44.4	33.3	32.5	23.0	24.6	9.5	4.0	1.6
	商工業、サービス業、自由業など	208	51.4	46.2	41.3	35.1	36.1	29.8	21.6	16.3	16.8	13.9	6.7	1.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	618	51.6	48.9	48.4	36.7	32.7	28.2	16.7	10.8	11.7	8.7	6.1	1.6
	主婦・主夫	390	59.5	55.1	47.7	44.4	40.8	31.5	24.6	17.2	15.9	19.7	3.8	1.8
	無職	310	51.6	46.8	41.0	44.8	34.2	34.5	27.1	19.0	13.2	18.7	9.0	1.6
圏域別	高松圏域	825	53.0	49.5	44.0	38.4	35.3	28.0	20.6	17.6	13.2	15.3	5.3	1.3
	東讃圏域	150	52.0	53.3	43.3	46.7	34.0	40.0	29.3	12.7	14.7	12.0	7.3	2.0
	小豆圏域	59	49.2	47.5	37.3	49.2	40.7	40.7	18.6	10.2	11.9	16.9	8.5	5.1
	中讃圏域	428	55.4	49.5	49.1	43.0	38.3	31.3	23.4	14.5	16.6	13.3	5.6	2.3
	西讃圏域	236	56.4	44.9	46.6	40.7	34.7	30.9	21.6	11.9	16.1	9.7	8.1	0.4
居住年数別	3年未満	108	51.9	53.7	39.8	30.6	29.6	29.6	7.4	7.4	9.3	5.6	6.5	2.8
	3年以上～10年未満	232	48.7	52.2	52.6	36.2	30.6	28.9	13.8	8.2	7.8	10.8	6.5	1.3
	10年以上～20年未満	255	55.3	47.8	51.4	39.6	39.2	26.7	16.9	16.1	10.6	12.5	5.5	1.6
	20年以上	1,076	54.9	48.9	43.3	43.3	37.5	32.2	27.0	17.6	17.6	15.7	5.9	1.7

#### (4) 自主防災組織への加入状況

問4 災害から住民を守るため、消防団とは別に、自治会などを単位として、初期消火、避難誘導、被災者の救出・救護などの自主的な防災活動を行う組織を自主防災組織（自主防災会）といいます。

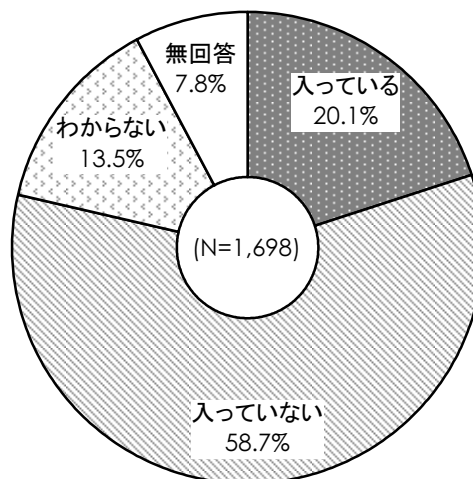
あなたは、その自主防災組織に入っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

〔回答者数=1,698〕

1 入っている	20.1%
2 入っていない	58.7%
3 わからない	13.5%
(無回答)	7.8%

自主防災組織への加入状況については、「入っていない」が58.7%と6割近くを占め、「入っている」は20.1%となっている。

〈 自主防災組織への加入状況 〉



性別にみると、男女とも「入っていない」が半数を超えており、「入っている」は『男性』が22.8%、『女性』が18.0%となっている。

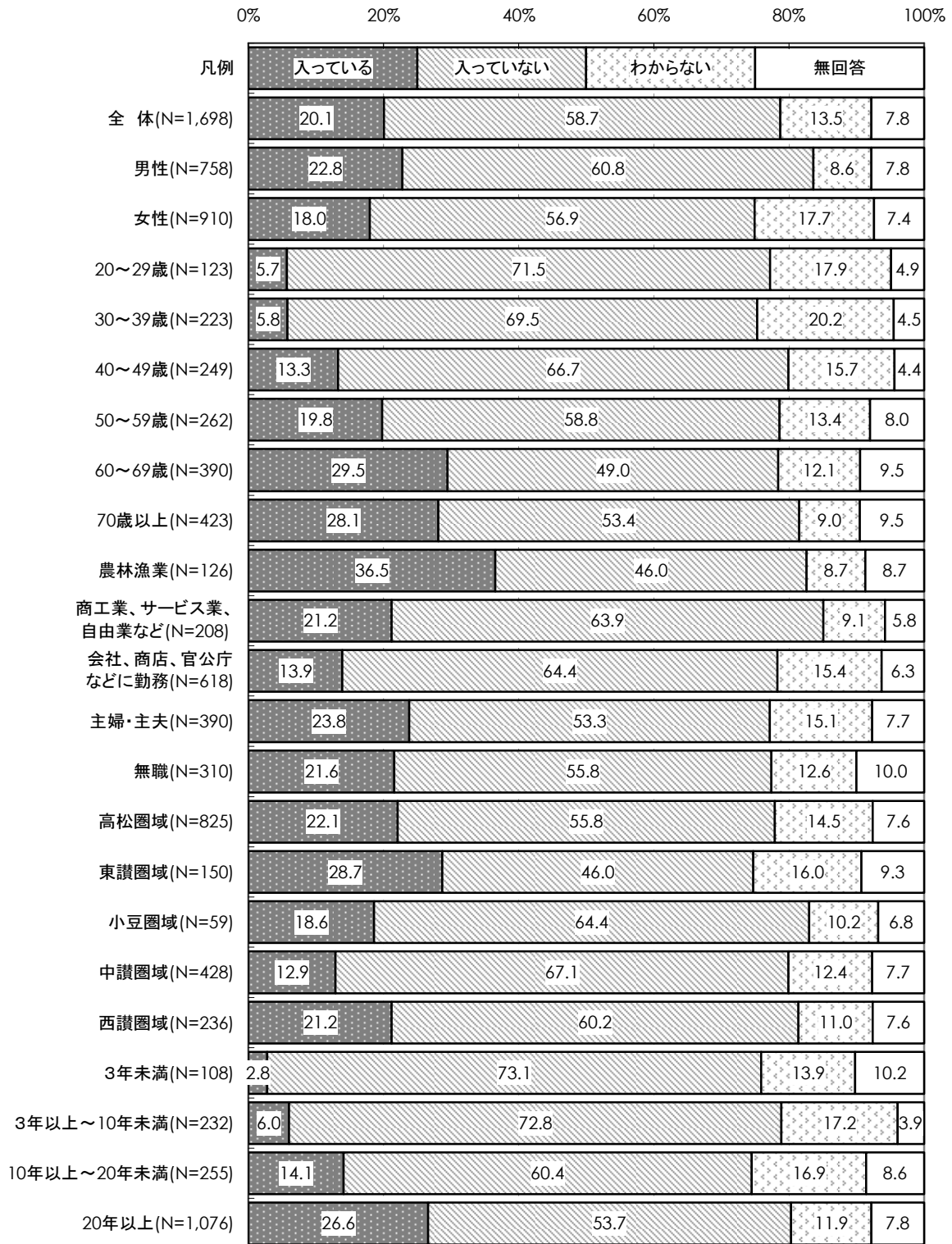
年齢別にみると、いずれも「入っていない」が「入っている」を上回っており、特に『20～29歳』、『30～39歳』では「入っている」が1割未満となっている。一方で、『60～69歳』、『70歳以上』では「入っている」が3割近くとなっている。

職業別にみると、いずれも「入っていない」が「入っている」を上回っており、特に『会社、商店、官公庁などに勤務』では「入っている」が2割未満となっている。一方で、『農林漁業』では「入っている」が36.5%と3割を超えている。

圏域別にみると、いずれも「入っていない」が「入っている」を上回っており、特に『小豆圏域』、『中讃圏域』では「入っている」が2割未満となっている。一方で、『東讃圏域』では「入っている」が28.7%と3割近くとなっている。

居住年数別にみると、いずれも「入っていない」が「入っている」を上回っており、特に『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「入っている」が1割未満となっている。一方で、『20年以上』では「入っている」が26.6%と2割を超え、居住年数が長いほど加入割合が高くなっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
自主防災組織への加入状況



## (5) 自主防災組織に入っていない理由

問4-1 《問4で「2 入っていない」と答えた方に、おたずねします》

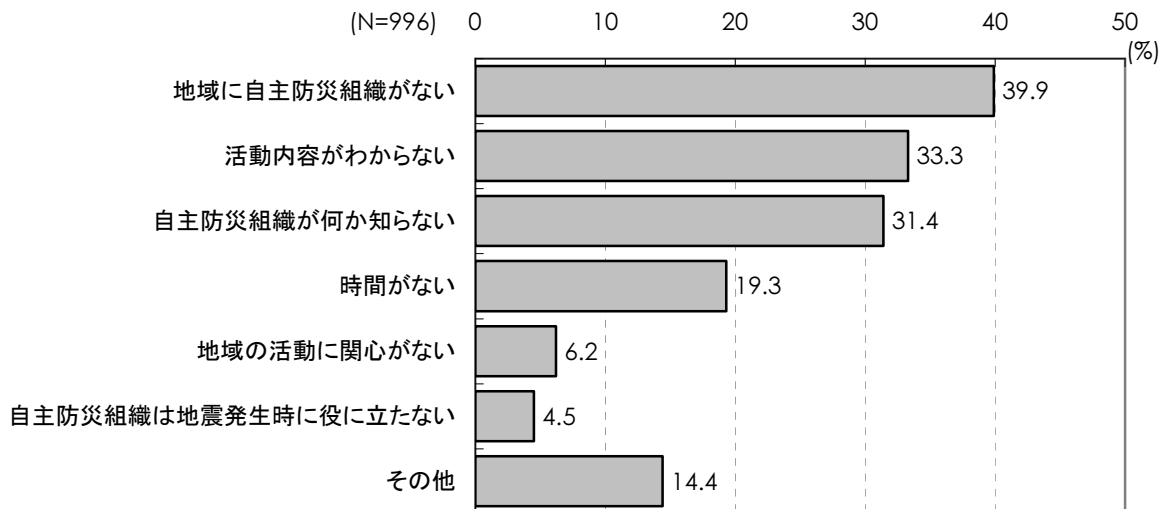
自主防災組織に入っていない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

[回答者数=996]

1 地域に自主防災組織がない	39.9%
2 活動内容がわからない	33.3%
3 自主防災組織が何か知らない	31.4%
4 時間がない	19.3%
5 地域の活動に関心がない	6.2%
6 自主防災組織は地震発生時に役に立たない	4.5%
7 その他	14.4%

自主防災組織に入っていない理由については、「地域に自主防災組織がない」が39.9%と最も高く、次いで「活動内容がわからない」が33.3%、「自主防災組織が何か知らない」が31.4%、「時間がない」が19.3%などとなっている。

〈 自主防災組織に入っていない理由 〉



性別にみると、男女とも「地域に自主防災組織がない」が最も高く、その比率は『男性』が39.3%、『女性』が40.9%で、これに、『男性』では「活動内容がわからない」が、『女性』では「自主防災組織が何か知らない」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『40～49歳』では「自主防災組織が何か知らない」が最も高くなっており、『50～59歳』、『60～69歳』、『70歳以上』では「地域に自主防災組織がない」が最も高くなっている。これに、『20～29歳』では「時間がない」が、『50～59歳』では「活動内容がわからない」と「自主防災組織が何か知らない」が、そのほかの年齢では「活動内容がわからない」が続いている。年齢が低い人ほど「自主防災組織が何か知らない」が高い割合となっていることから、若い年齢層の“自主防災組織”の認知が低い結果となっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「自主防災組織が何か知らない」が最も高くなっており、そのほかの職業では「地域に自主防災組織がない」が最も高くなっている。これに、『商工業、サービス業、自由業など』では「時間がない」が、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「地域に自主防災組織がない」が、そのほかの職業では「活動内容がわからない」が続いている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「活動内容がわからない」が最も高くなっており、そのほかの圏域では「地域に自主防災組織がない」が最も高くなっている。これに、『小豆圏域』では「活動内容がわからない」が、『中讃圏域』では「活動内容がわからない」と「自主防災組織が何か知らない」が、そのほかの圏域では「自主防災組織が何か知らない」が続いている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「地域に自主防災組織がない」が最も高くなっており、そのほかでは「自主防災組織が何か知らない」が最も高くなっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
 自主防災組織に入っていない理由

(単位：%)

		回答者数(人)	地域に自主防災組織がない	活動内容がわからない	自主防災組織が何か知らない	時間がない	地域の活動に関心がない	自主防災組織は地震発生時に役に立たない	その他
全 体		996	39.9	33.3	31.4	19.3	6.2	4.5	14.4
性別	男性	461	39.3	31.5	26.7	22.6	7.4	6.1	13.7
	女性	518	40.9	35.1	36.3	16.4	5.2	3.3	15.3
年齢別	20～29 歳	88	15.9	28.4	51.1	35.2	14.8	2.3	10.2
	30～39 歳	155	27.7	29.7	44.5	28.4	7.1	0.6	14.8
	40～49 歳	166	28.9	36.1	37.3	23.5	6.0	3.0	13.9
	50～59 歳	154	41.6	31.8	31.8	25.3	5.8	3.9	13.0
	60～69 歳	191	52.4	37.7	24.6	11.0	4.2	4.2	12.6
	70 歳以上	226	54.0	32.7	17.3	6.6	4.9	10.2	19.5
職業別	農林漁業	58	62.1	34.5	10.3	12.1	5.2	13.8	8.6
	商工業、サービス業、自由業など	133	32.3	27.8	36.8	33.1	4.5	3.8	14.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	398	34.7	32.7	36.4	25.6	8.3	2.0	12.1
	主婦・主夫	208	43.8	37.0	33.2	11.1	4.8	2.9	15.9
	無職	173	45.7	33.5	23.7	6.4	5.2	9.8	20.8
圏域別	高松圏域	460	30.2	36.3	31.5	22.6	5.4	5.4	15.0
	東讃圏域	69	49.3	26.1	34.8	17.4	11.6	5.8	10.1
	小豆圏域	38	44.7	39.5	28.9	13.2	2.6	7.9	21.1
	中讃圏域	287	49.5	30.3	30.3	17.8	7.3	2.8	13.9
	西讃圏域	142	45.8	31.7	32.4	14.1	4.9	3.5	13.4
居住年数別	3 年未満	79	17.7	36.7	44.3	31.6	8.9	1.3	19.0
	3 年以上～10 年未満	169	27.8	34.3	43.8	22.5	8.9	3.0	15.4
	10 年以上～20 年未満	154	32.5	33.1	38.3	24.7	4.5	2.6	9.7
	20 年以上	578	48.4	32.7	24.7	15.2	5.7	6.1	15.1

## (6) 地震対策として特に力を入れてほしい対策

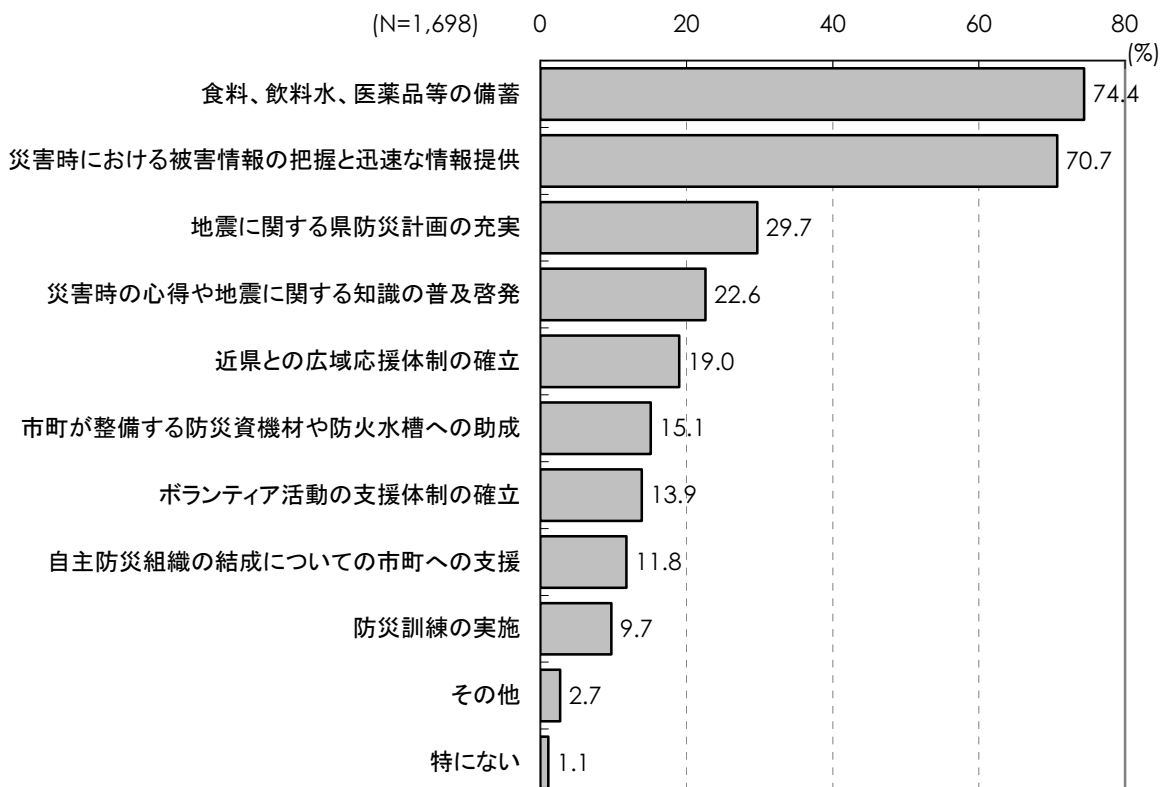
問5 県に対して、地震対策として特に力を入れてほしい対策はどのようなことですか。次の中から3つまで選んでください。

[回答者数=1,698]

1 食料、飲料水、医薬品等の備蓄	74.4%
2 災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	70.7%
3 地震に関する県防災計画の充実	29.7%
4 災害時の心得や地震に関する知識の普及啓発	22.6%
5 近県との広域応援体制の確立	19.0%
6 市町が整備する防災資機材や防火水槽への助成	15.1%
7 ボランティア活動の支援体制の確立	13.9%
8 自主防災組織の結成についての市町への支援	11.8%
9 防災訓練の実施	9.7%
10 その他	2.7%
11 特にない	1.1%

県に対して、地震対策として特に力を入れてほしい対策については、「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が74.4%と7割を超え最も高く、次いで「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が70.7%、「地震に関する県防災計画の充実」が29.7%、「災害時の心得や地震に関する知識の普及啓発」が22.6%などとなっている。

### 〈 地震対策として特に力を入れてほしい対策 〉





性別にみると、男女とも「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も高く、その比率は『男性』が72.3%、『女性』が76.3%で、これに「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が『男性』が67.7%、『女性』が73.7%で続いている。

年齢別にみると、『60～69歳』では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が最も高くなっており、そのほかの年齢では「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も高くなっている。これに、『60～69歳』では「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が、そのほかの年齢では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が続いている。

職業別にみると、『農林漁業』、『主婦・主夫』では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が最も高くなっており、そのほかの職業では「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も高くなっている。これに、『農林漁業』、『主婦・主夫』では「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が、そのほかの職業では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が続いている。

圏域別にみると、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が最も高くなっており、そのほかの圏域では「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も高くなっている。これに、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が、そのほかの圏域では「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「食料、飲料水、医薬品等の備蓄」が最も高くなっており、これに、「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
地震対策として特に力を入れてほしい対策

(単位：%)

		回答者数(人)	食料、飲料水、医薬品等の備蓄	災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	地震に関する県防災計画の充実	災害時の心得や地震に関する知識の普及啓発	近県との広域応援体制の確立	市町が整備する防災資機材や防火水槽への助成	ボランティア活動の支援体制の確立	自主防災組織の結成についての市町への支援	防災訓練の実施	その他	特にない
全 体		1,698	74.4	70.7	29.7	22.6	19.0	15.1	13.9	11.8	9.7	2.7	1.1
性別	男性	758	72.3	67.7	30.6	22.6	19.3	15.2	13.7	12.9	8.3	3.8	1.6
	女性	910	76.3	73.7	29.5	22.3	18.9	15.2	14.5	10.5	10.8	1.8	0.4
年齢別	20～29 歳	123	82.1	70.7	33.3	16.3	24.4	16.3	13.0	4.1	2.4	2.4	0.0
	30～39 歳	223	78.9	73.1	25.1	18.8	25.6	12.6	13.5	6.3	5.8	3.6	0.4
	40～49 歳	249	78.3	71.9	28.1	18.9	23.7	15.3	11.2	6.4	9.2	2.8	0.4
	50～59 歳	262	75.2	69.1	32.8	19.8	23.7	17.6	14.1	11.1	8.4	3.8	0.8
	60～69 歳	390	69.5	72.1	32.3	26.9	15.4	15.4	12.3	17.4	12.3	2.1	0.8
	70 歳以上	423	71.6	69.7	28.8	25.3	12.1	14.9	18.0	14.9	12.3	2.1	2.4
職業別	農林漁業	126	61.1	65.1	19.0	29.4	19.0	16.7	17.5	18.3	12.7	3.2	4.8
	商工業、サービス業、自由業など	208	72.1	69.7	28.8	18.3	18.8	15.4	13.9	13.5	13.0	3.4	1.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	618	79.1	71.2	28.8	21.8	22.8	15.2	13.3	9.9	6.6	2.9	0.3
	主婦・主夫	390	76.2	76.7	32.8	21.0	16.4	14.4	14.4	11.3	9.7	1.5	0.5
	無職	310	69.7	66.1	32.9	24.8	16.1	16.5	14.2	12.3	12.6	2.9	1.6
圏域別	高松圏域	825	76.0	72.4	31.2	22.9	17.3	13.3	13.1	10.4	9.0	2.5	1.3
	東讃圏域	150	81.3	64.7	30.0	20.0	17.3	14.7	14.0	14.0	10.7	2.7	1.3
	小豆圏域	59	57.6	67.8	20.3	16.9	13.6	18.6	13.6	13.6	11.9	5.1	3.4
	中讃圏域	428	71.0	72.2	30.1	23.1	22.0	16.1	15.7	13.3	9.8	2.8	0.2
	西讃圏域	236	74.6	66.9	26.3	23.3	21.6	18.6	13.6	11.9	11.0	2.1	1.3
居住年数別	3 年未満	108	77.8	76.9	28.7	18.5	29.6	7.4	12.0	1.9	8.3	5.6	0.0
	3 年以上～10 年未満	232	78.4	73.3	31.9	23.7	23.7	11.2	11.2	6.9	5.6	2.2	0.0
	10 年以上～20 年未満	255	83.9	73.3	34.5	16.9	14.9	15.3	10.6	7.1	8.2	2.4	1.6
	20 年以上	1,076	71.0	69.4	28.6	23.8	18.0	16.8	15.7	14.8	11.1	2.6	1.2

## 2 少子化対策について

### (1) 結婚や家庭についての考え

問6 結婚や家庭についての次のそれぞれの考え方について、あなたはどのように思いますか。

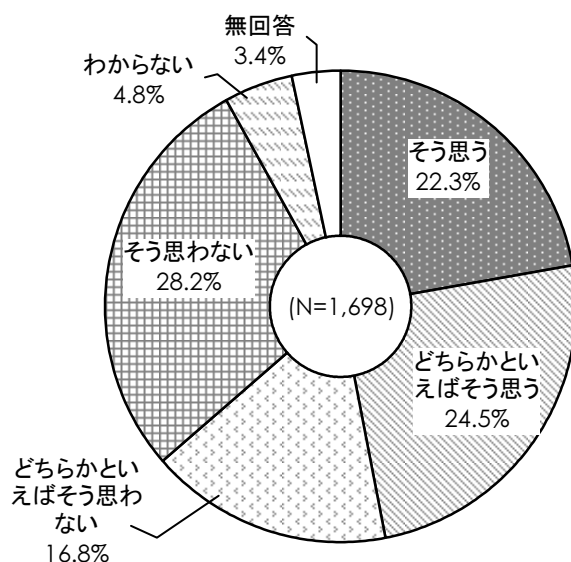
① 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい

[回答者数=1,698]

1 そう思う	22.3%
2 どちらかといえばそう思う	24.5%
3 どちらかといえばそう思わない	16.8%
4 そう思わない	28.2%
5 わからない	4.8%
(無回答)	3.4%

“結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい”に対する考えについては、「そう思わない」が28.2%と3割近くを占め最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の16.8%を合わせた【そう思わない】が45.0%となっている。一方、「そう思う」が22.3%で、「どちらかといえばそう思う」の24.5%を合わせた【そう思う】は46.8%となっており、【そう思う】が【そう思わない】をやや上回っている。

〈 “結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい” に対する考え 〉



性別にみると、男性では【そう思わない】が半数近くを占め、【そう思わない】が【そう思う】をやや上回っているのに対し、女性では【そう思う】が約半数を占め、【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

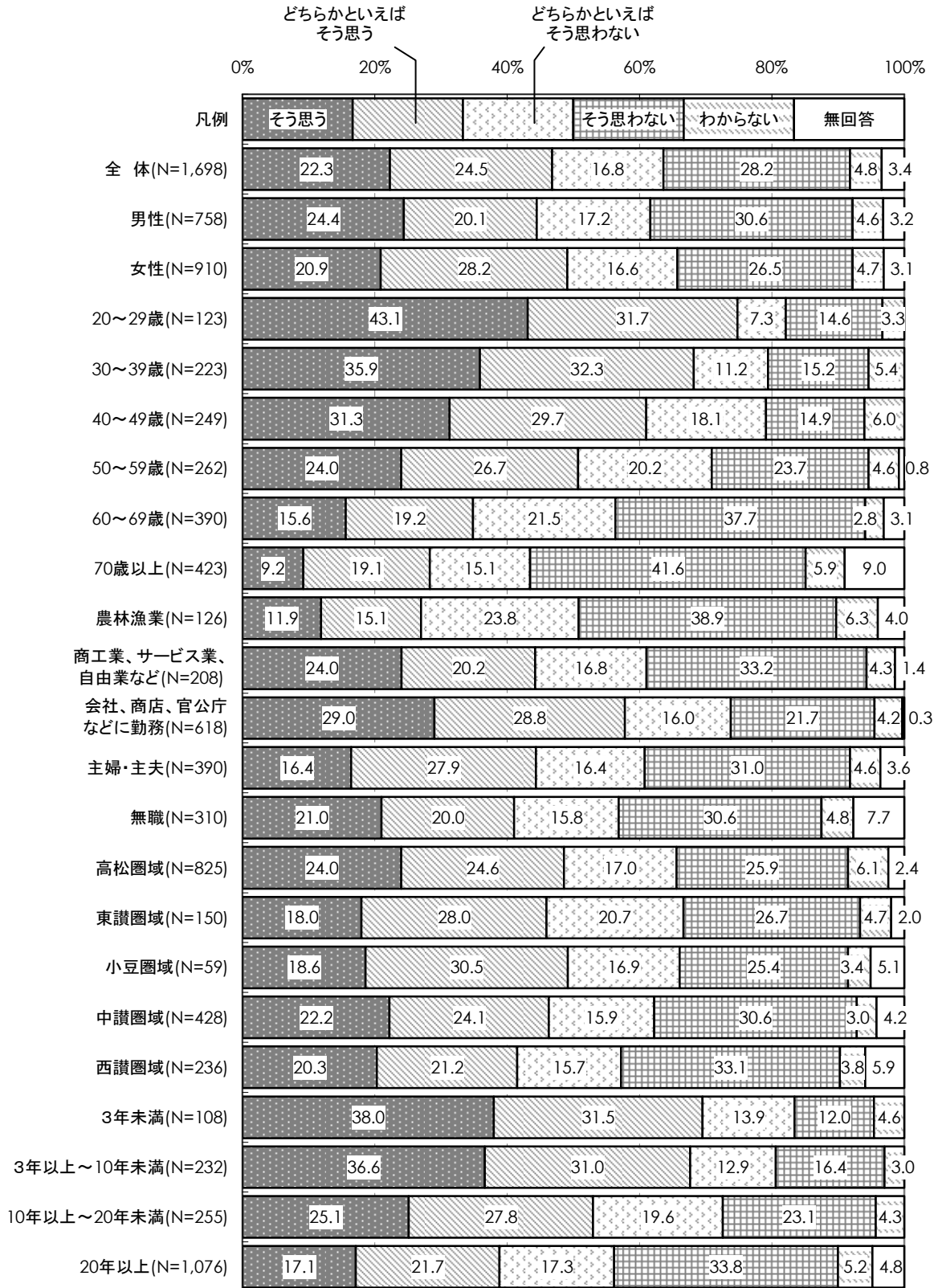
年齢別にみると、年齢が上がるほど【そう思わない】の割合が高く、『60～69歳』、『70歳以上』では【そう思わない】が【そう思う】を上回っているのに対し、『20～29歳』から『50～59歳』までは【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。特に『20～29歳』では【そう思う】が74.8%と7割を超える。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【そう思う】が半数を超え、【そう思う】が【そう思わない】を上回っているのに対し、そのほかの職業では【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。特に、『農林漁業』では【そう思わない】が62.7%と6割を超える。

圏域別にみると、『高松圏域』、『小豆圏域』では【そう思う】が【そう思わない】を上回っているのに対し、そのほかの圏域では【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』では【そう思わない】が半数を超え、【そう思わない】が【そう思う】を上回っているのに対し、そのほかでは【そう思う】が半数を超え、【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。特に、『3年未満』では【そう思う】が69.5%と約7割を占める。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
 “結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい”に対する考え



問6 結婚や家庭についての次のそれぞれの考え方について、あなたはどのように思いますか。

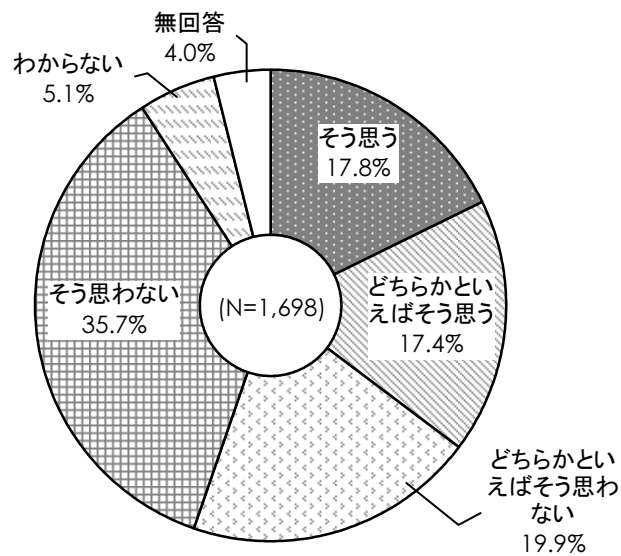
② 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない

〔回答者数=1,698〕

1 そう思う	17.8%
2 どちらかといえばそう思う	17.4%
3 どちらかといえばそう思わない	19.9%
4 そう思わない	35.7%
5 わからない	5.1%
(無回答)	4.0%

“結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない”に対する考えについては、「そう思わない」が35.7%と3割を超え最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の19.9%を合わせた【そう思わない】が55.6%と半数を超える。一方、「そう思う」が17.8%で、「どちらかといえばそう思う」の17.4%を合わせた【そう思う】は35.2%と3割強となっている。

〈 “結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない”に対する考え 〉



性別にみると、【そう思わない】は『男性』が 60.1%、『女性』が 52.4%と、いずれも半数を超え、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

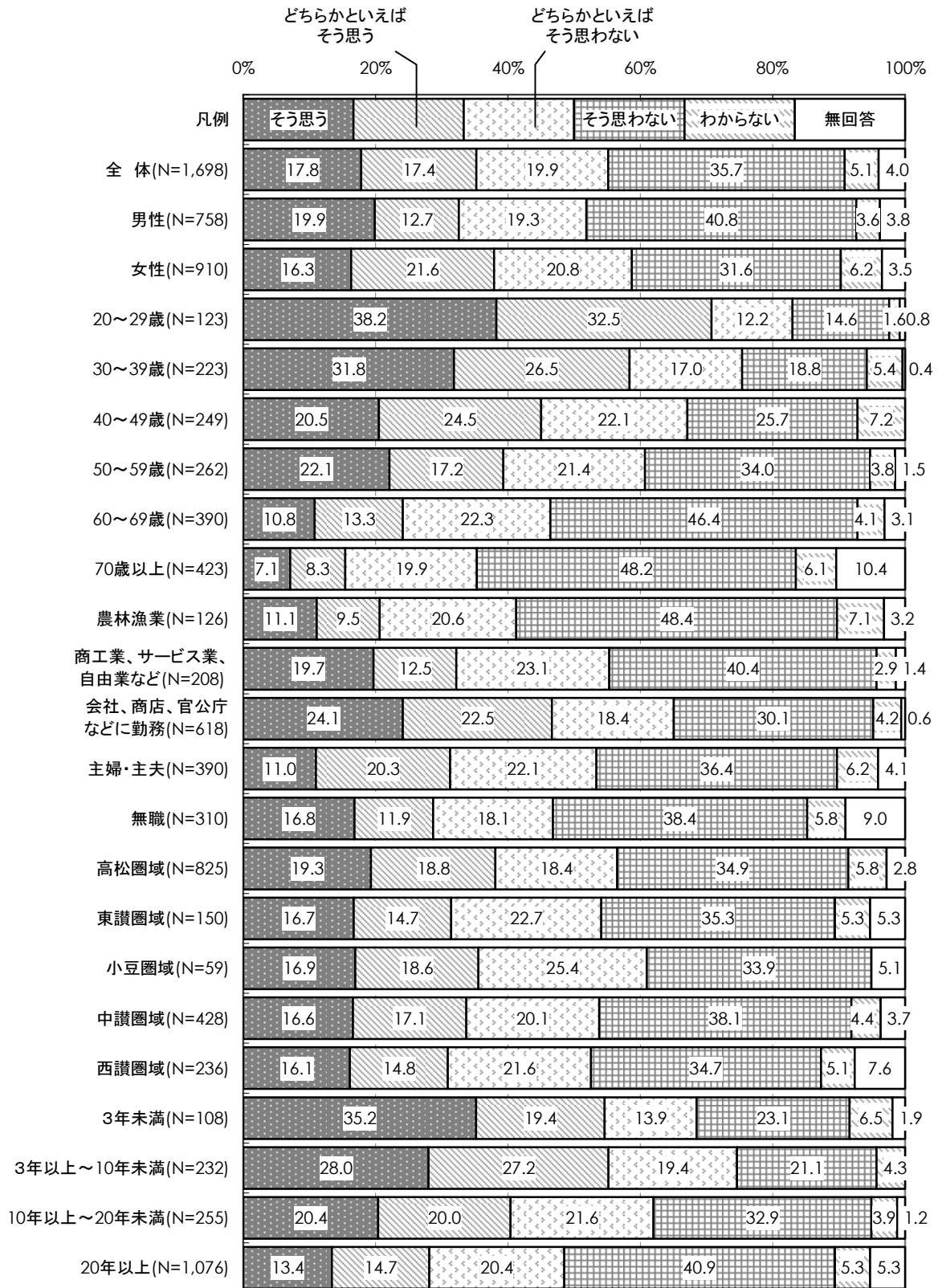
年齢別にみると、『40～49 歳』から『70 歳以上』までは【そう思わない】が【そう思う】を上回っているのに対し、『20～29 歳』『30～39 歳』では【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。特に『20～29 歳』では【そう思う】が 70.7%と 7割を超える。

職業別にみると、いずれも【そう思わない】が【そう思う】を上回っており、特に、『農林漁業』では【そう思わない】が 69.0%と 7割近くを占める。

圏域別にみると、いずれも【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

居住年数別にみると、『3 年未満』『3 年以上～10 年未満』では、【そう思う】が半数を超え、【そう思う】が【そう思わない】を上回っているのに対し、そのほかでは【そう思わない】が半数を超え、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。特に、『20 年以上』では【そう思わない】が 61.3%と 6割を超える。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
 “結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない”に対する考え





問6 結婚や家庭についての次のそれぞれの考え方について、あなたはどのように思いますか。

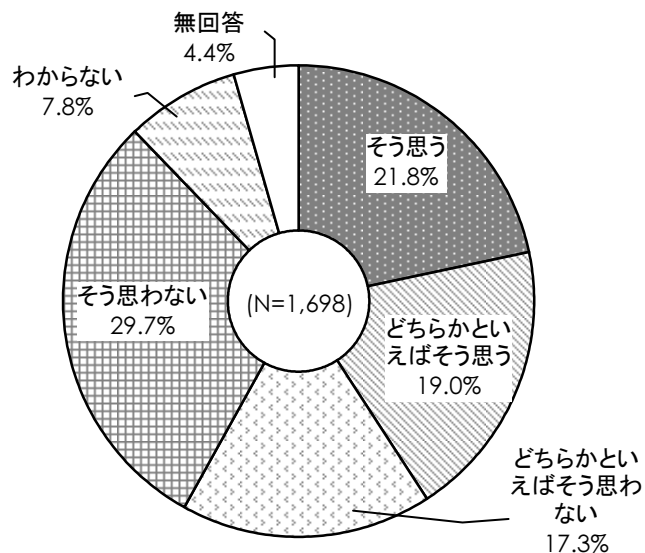
③ 結婚していなくても、子どもを持つのは自由である

〔回答者数=1,698〕

1 そう思う	21.8%
2 どちらかといえばそう思う	19.0%
3 どちらかといえばそう思わない	17.3%
4 そう思わない	29.7%
5 わからない	7.8%
(無回答)	4.4%

“結婚していなくても、子どもを持つのは自由である”に対する考えについては、「そう思わない」が29.7%と約3割を占め最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の17.3%を合わせた【そう思わない】が47.0%と半数近くを占める。一方、「そう思う」が21.8%で、「どちらかといえばそう思う」の19.0%を合わせた【そう思う】は40.8%と約4割となっている。

〈 “結婚していなくても、子どもを持つのは自由である” に対する考え 〉



性別にみると、【そう思わない】は『男性』が 47.3%、『女性』が 47.6%と、いずれも半数近くを占め、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

年齢別にみると、『50～59 歳』から『70 歳以上』では【そう思わない】が【そう思う】を上回っているのに対し、『20～29 歳』から『40～49 歳』では【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。特に『20～29 歳』では【そう思う】が 61.8%と 6 割を超える。

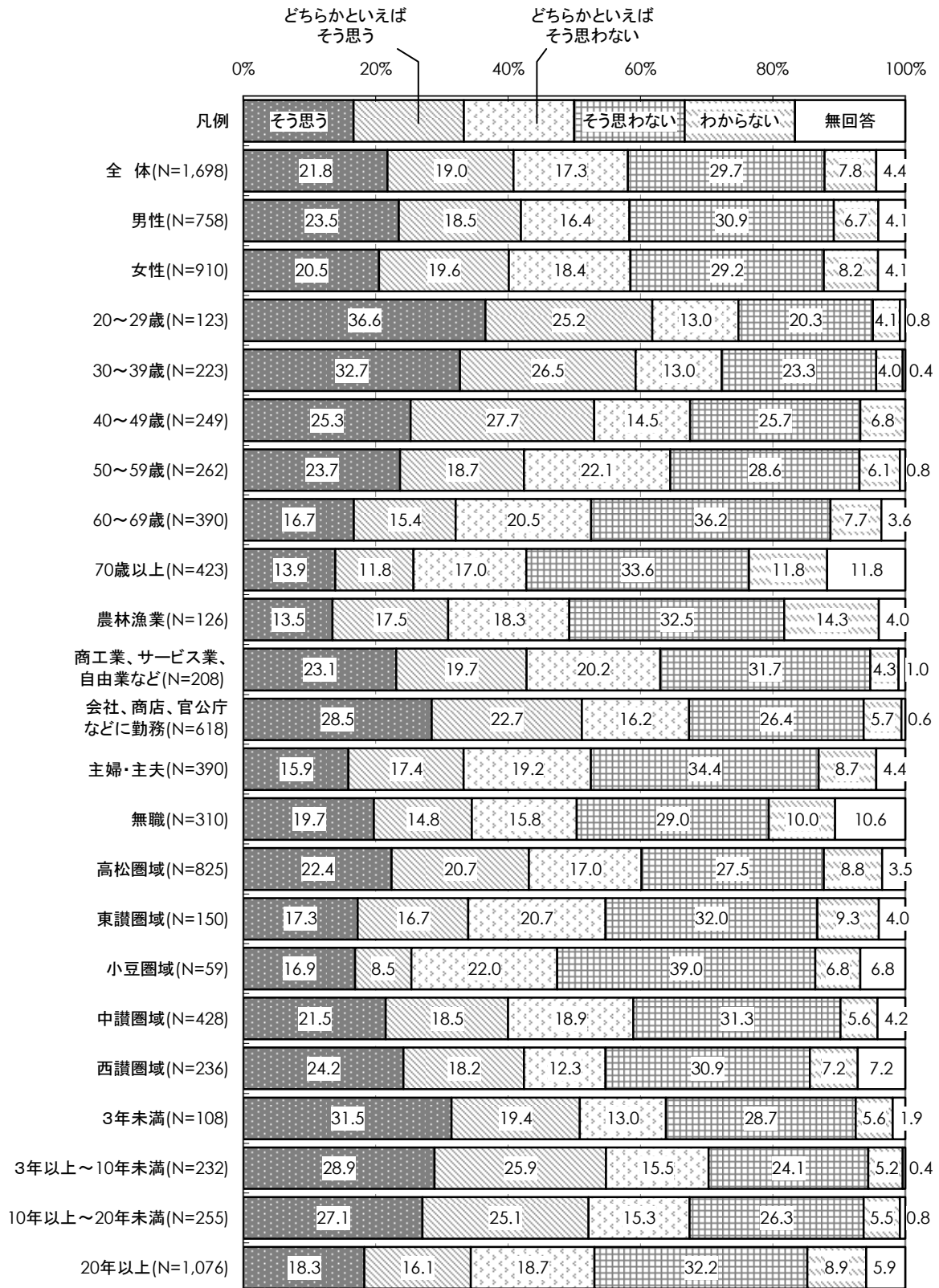
職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【そう思う】が半数を超え、【そう思う】が【そう思わない】を上回っているのに対し、そのほかの職業では【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。特に、『主婦・主夫』では【そう思わない】が 53.6%となっている。

圏域別にみると、いずれも【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

居住年数別にみると、『20 年以上』では【そう思わない】が約半数を占め、【そう思わない】が【そう思う】を上回っているのに対し、そのほかでは【そう思う】が半数を超え、【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別

“結婚していなくても、子どもを持つのは自由である”に対する考え



問6 結婚や家庭についての次のそれぞれの考え方について、あなたはどのように思いますか。

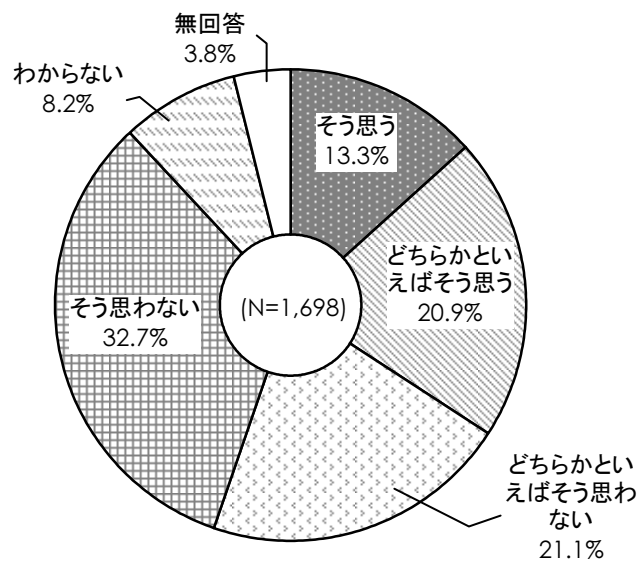
④ 子どもよりも、まず夫婦の生活を大切にすべきだ

〔回答者数=1,698〕

1	そう思う	13.3%
2	どちらかといえばそう思う	20.9%
3	どちらかといえばそう思わない	21.1%
4	そう思わない	32.7%
5	わからない	8.2%
	(無回答)	3.8%

“子どもよりも、まず夫婦の生活を大切にすべきだ”に対する考えについては、「そう思わない」が32.7%と3割を超え最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の21.1%を合わせた【そう思わない】が53.8%と半数を超える。一方、「そう思う」が13.3%で、「どちらかといえばそう思う」の20.9%を合わせた【そう思う】は34.2%と3割強となっている。

〈 “子どもよりも、まず夫婦の生活を大切にすべきだ”に対する考え 〉



性別にみると、【そう思わない】は『男性』が 51.4%、『女性』が 56.2%と、いずれも半数を超え、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

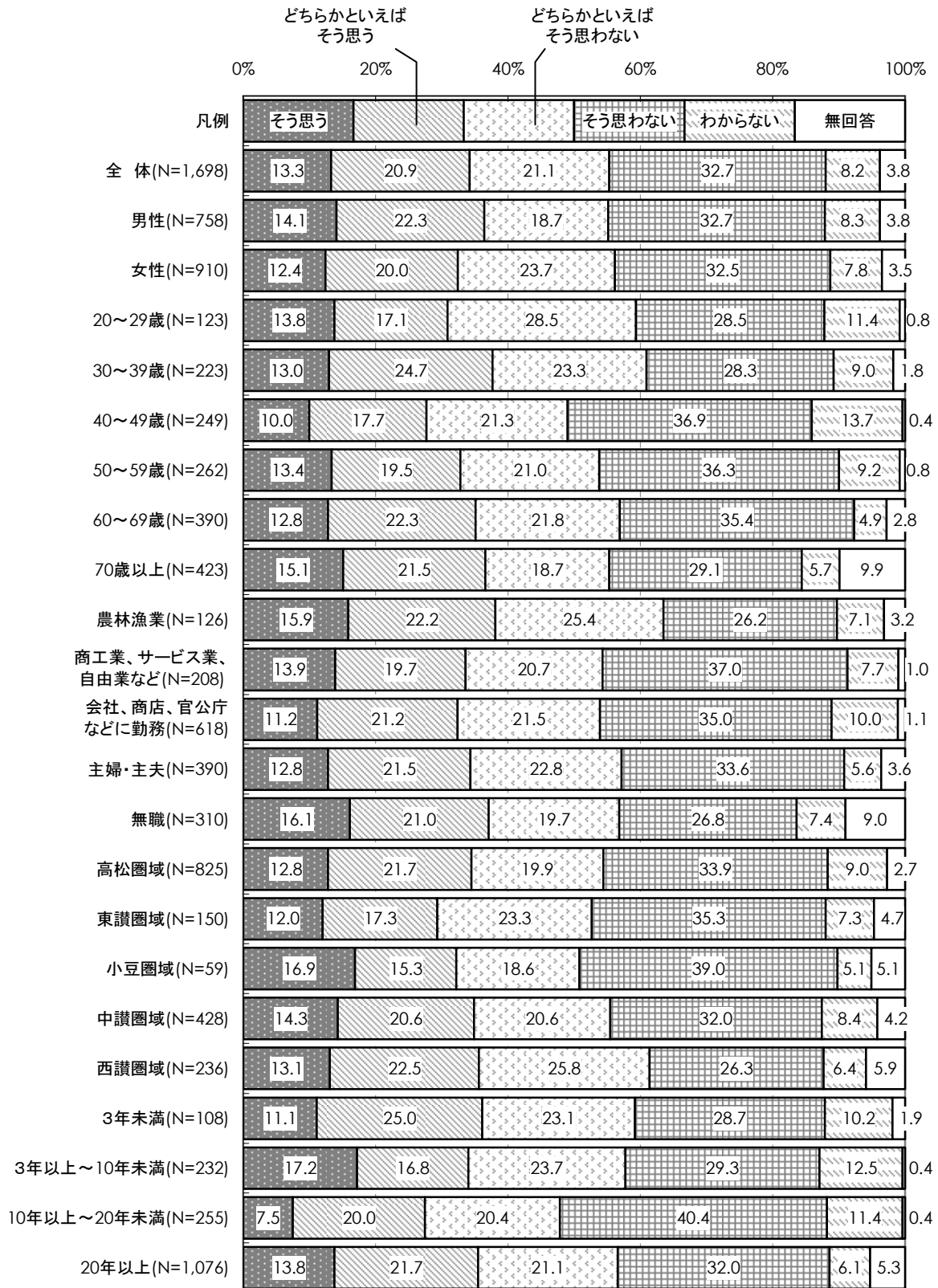
年齢別にみると、いずれも【そう思わない】が【そう思う】を上回っており、特に『40～49歳』では【そう思わない】が 58.2%となっている。

職業別にみると、いずれも【そう思わない】が【そう思う】を上回っており、特に『商工業、サービス業、自由業など』では【そう思わない】が 57.7%となっている。

圏域別にみると、いずれも【そう思わない】が半数を超え、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。特に『東讃圏域』では【そう思わない】が 58.6%となっている。

居住年数別にみると、いずれも【そう思わない】が半数を超え、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。特に『10年以上～20年未満』では【そう思わない】が 60.8%と約6割を占める。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
 “子どもよりも、まず夫婦の生活を大切にすべきだ”に対する考え



問6 結婚や家庭についての次のそれぞれの考え方について、あなたはどのように思いますか。

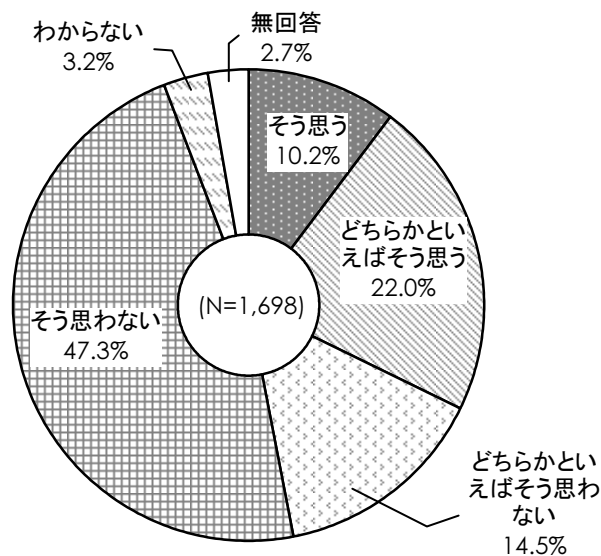
⑤ 男性は外で働き、女性は家庭を守るのが望ましい

〔回答者数=1,698〕

1 そう思う	10.2%
2 どちらかといえばそう思う	22.0%
3 どちらかといえばそう思わない	14.5%
4 そう思わない	47.3%
5 わからない	3.2%
(無回答)	2.7%

“男性は外で働き、女性は家庭を守るのが望ましい”に対する考えについては、「そう思わない」が47.3%と半数近くを占め最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の14.5%を合わせた【そう思わない】が61.8%と6割を超える。一方、「そう思う」が10.2%で、「どちらかといえばそう思う」の22.0%を合わせた【そう思う】は32.2%と3割強となっている。

〈 “男性は外で働き、女性は家庭を守るのが望ましい”に対する考え 〉



性別にみると、【そう思わない】は『男性』が 56.8%、『女性』が 67.1%と、いずれも半数を超え、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。特に、『20～29 歳』、『30～39 歳』では7割を超える。

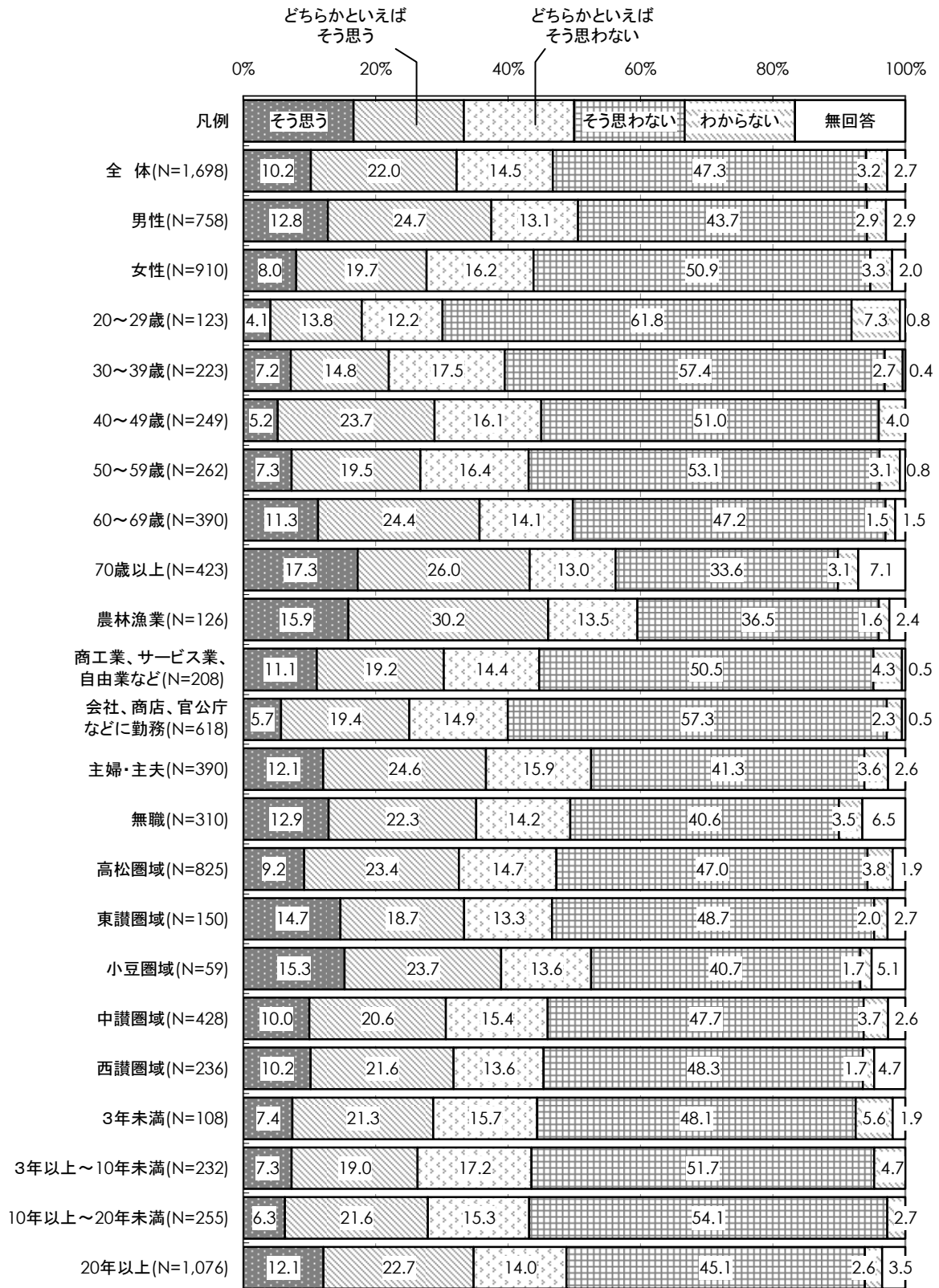
職業別にみると、いずれも【そう思わない】が【そう思う】を上回っており、特に『会社、商店、官公庁などに勤務』では【そう思わない】が 72.2%と7割を超える。

圏域別にみると、いずれも【そう思わない】が半数を超え、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【そう思わない】が半数を超え、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。



性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
 “男性は外で働き、女性は家庭を守るのが望ましい”に対する考え



問6 結婚や家庭についての次のそれぞれの考え方について、あなたはどのように思いますか。

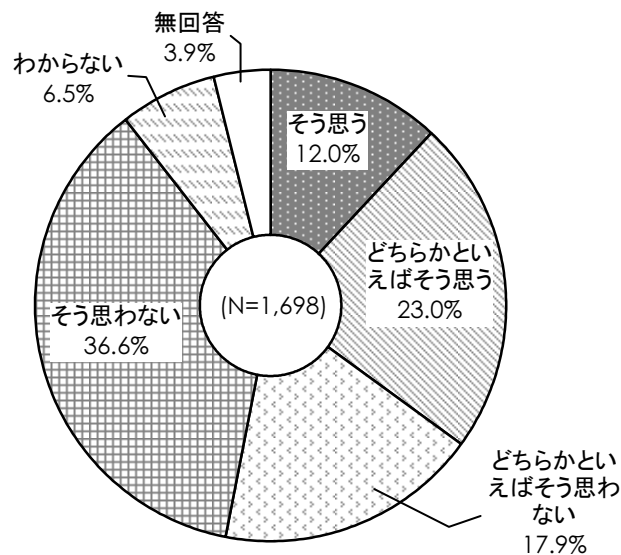
⑥ 家事との両立が難しければ、女性は仕事をすべきでない

〔回答者数=1,698〕

1 そう思う	12.0%
2 どちらかといえばそう思う	23.0%
3 どちらかといえばそう思わない	17.9%
4 そう思わない	36.6%
5 わからない	6.5%
(無回答)	3.9%

“家事との両立が難しければ、女性は仕事をすべきでない”に対する考えについては、「そう思わない」が36.6%と3割を超え最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の17.9%を合わせた【そう思わない】が54.5%と半数を超える。一方、「そう思う」が12.0%で、「どちらかといえばそう思う」の23.0%を合わせた【そう思う】は35.0%と3割強となっている。

〈 “家事との両立が難しければ、女性は仕事をすべきでない” に対する考え 〉



性別にみると、【そう思わない】は『男性』が 50.5%、『女性』が 58.7%と、いずれも半数以上を占め、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

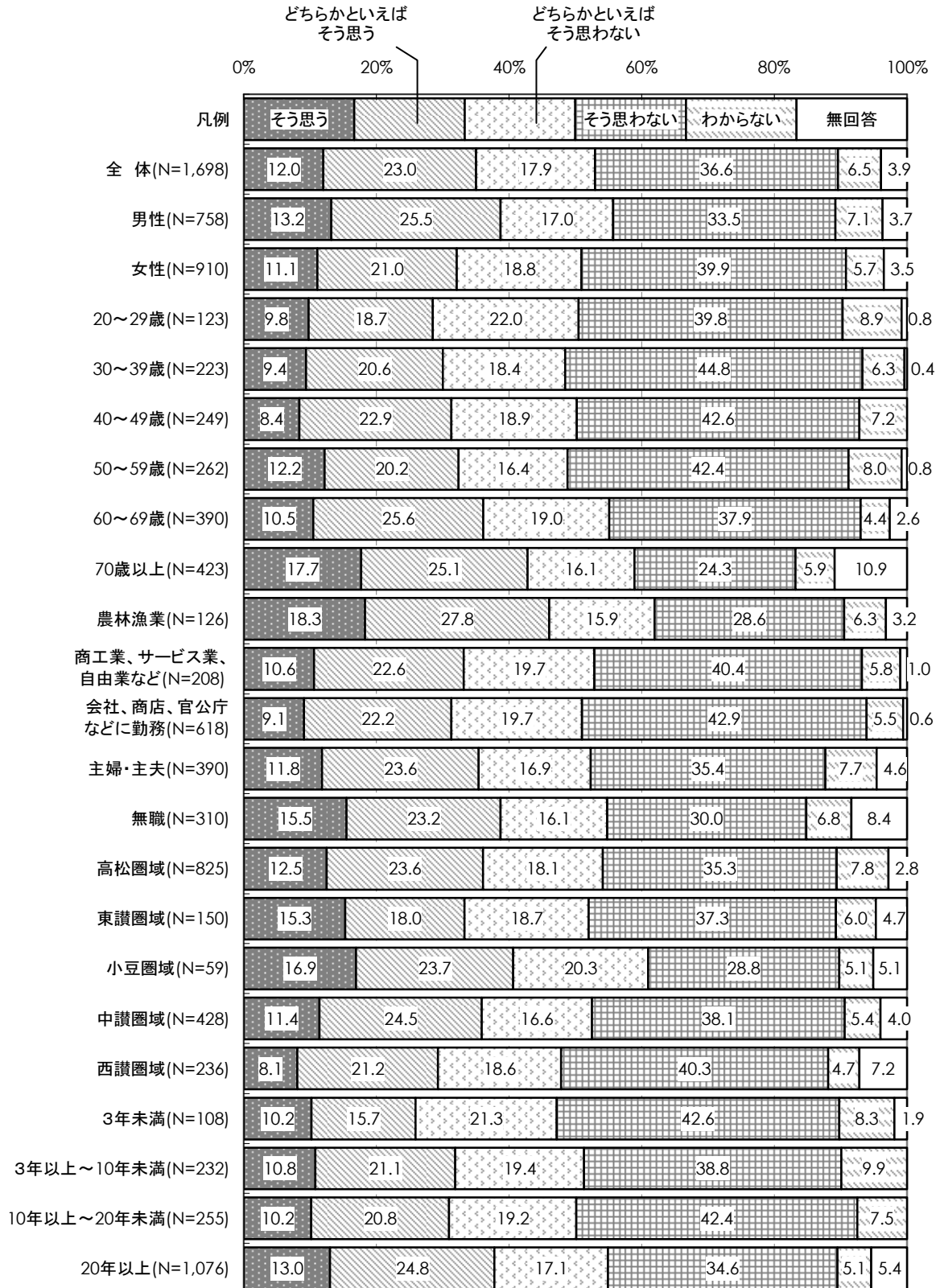
年齢別にみると、『20～29 歳』から『60～69 歳』では【そう思わない】が【そう思う】を上回っているのに対し、『70 歳以上』では【そう思う】が 42.8%と 4 割を超え、【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』では【そう思う】が 46.1%と 4 割を超え、【そう思う】が【そう思わない】を上回っているのに対し、そのほかの職業では【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。特に、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【そう思わない】が 62.6%と 6 割を超える。

圏域別にみると、いずれも【そう思わない】が【そう思う】を上回っているものの、『小豆圏域』では【そう思う】が 40.6%、【そう思わない】が 49.1%と、そのほかの圏域に比べて差はやや小さい。

居住年数別にみると、いずれも【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
 “家事との両立が難しければ、女性は仕事をすべきでない” に対する考え



## (2) 出生率の低下の原因

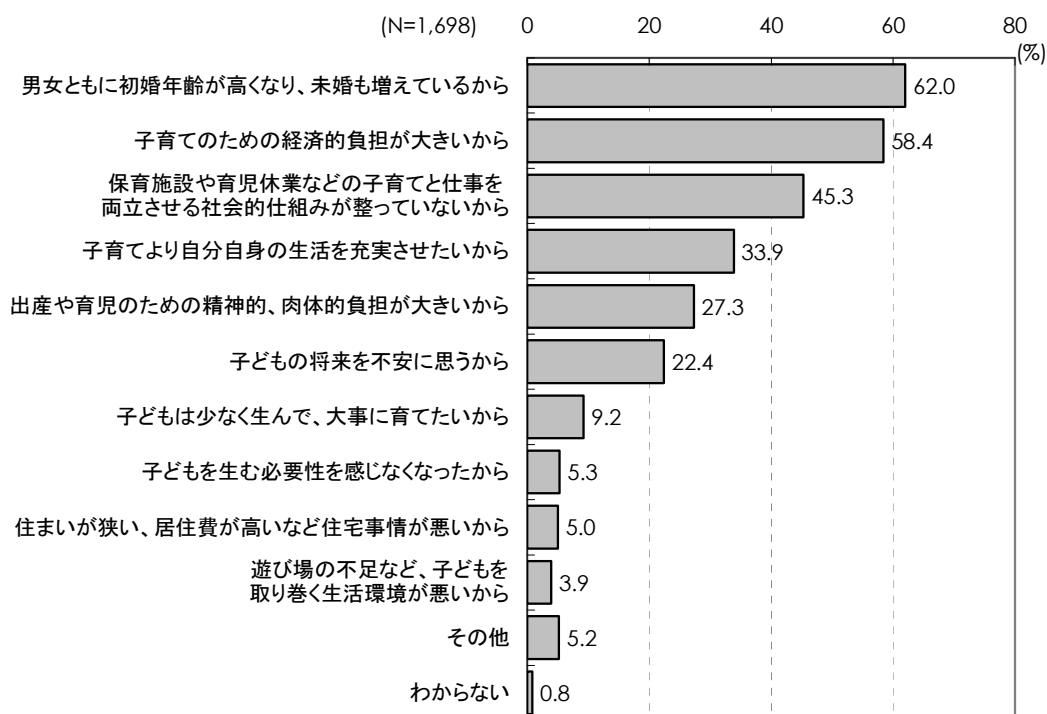
問7 長期的に出生率が低下し子どもの数が減っています。あなたは、出生率の低下の原因は何だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[回答者数=1,698]

1 男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから	62.0%
2 子育てのための経済的負担が大きいから	58.4%
3 保育施設や育児休業などの子育てと仕事を両立させる社会的仕組みが整っていないから	45.3%
4 子育てより自分自身の生活を充実させたいから	33.9%
5 出産や育児のための精神的、肉体的負担が大きいから	27.3%
6 子どもの将来を不安に思うから	22.4%
7 子どもは少なく生んで、大事に育てたいから	9.2%
8 子どもを生む必要性を感じなくなったから	5.3%
9 住まいが狭い、居住費が高いなど住宅事情が悪いから	5.0%
10 遊び場の不足など子どもを取り巻く生活環境が悪いから	3.9%
11 その他	5.2%
12 わからない	0.8%

出生率の低下の原因については、「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」が62.0%と6割を超え最も高く、次いで「子育てのための経済的負担が大きいから」が58.4%、「保育施設や育児休業などの子育てと仕事を両立させる社会的仕組みが整っていないから」が45.3%、「子育てより自分自身の生活を充実させたいから」が33.9%などとなっている。

### 〈 出生率の低下の原因 〉



性別にみると、『男性』では「子育てのための経済的負担が大きいから」が6割を超え最も高く、『女性』では「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」が6割を超え最も高くなっている。

年齢別にみると、『60～69歳』、『70歳以上』では「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」が6割を超え最も高くなっており、そのほかの年齢では「子育てのための経済的負担が大きいから」が6割を超え最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「子育てのための経済的負担が大きいから」が6割を超え最も高くなっており、そのほかの職業では「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『小豆圏域』では「子育てのための経済的負担が大きいから」が最も高くなっており、そのほかの圏域では「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『20年以上』では「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」が最も高くなっており、そのほかでは「子育てのための経済的負担が大きいから」が最も高くなっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
出生率の低下の原因

(単位：%)

		回答者数(人)	男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから	子育てのための経済的負担が大きいため	保育施設や育児休業などの子育てと仕事を両立させる社会的仕組みが整っていないから	子育てより自分自身の生活を充実させたいから	出産や育児のための精神的、肉体的負担が大きいため	子どもの将来を不安に思うから	子どもは少なく生んで、大事に育てたいから	子どもを生む必要性を感じなくなったから	住まいが狭い、居住費が高いなど住宅事情が悪いから	遊び場の不足など、子どもを取り巻く生活環境が悪いから	その他	わからない
全体		1,698	62.0	58.4	45.3	33.9	27.3	22.4	9.2	5.3	5.0	3.9	5.2	0.8
性別	男性	758	58.7	61.2	40.1	35.8	27.3	21.1	9.8	5.9	5.8	3.8	6.1	0.8
	女性	910	65.2	56.3	49.9	32.7	27.8	23.4	8.4	4.9	4.3	4.0	4.6	0.7
年齢別	20～29歳	123	54.5	69.9	40.7	37.4	30.1	21.1	4.9	3.3	9.8	5.7	5.7	0.8
	30～39歳	223	57.4	65.0	51.1	35.9	26.9	18.8	3.1	3.1	4.9	2.7	9.0	0.0
	40～49歳	249	62.7	65.5	43.0	34.1	26.9	20.5	6.4	3.6	3.6	4.0	4.4	0.8
	50～59歳	262	58.0	62.6	45.4	38.5	26.7	21.0	6.5	8.4	6.1	2.3	6.5	0.8
	60～69歳	390	69.2	51.8	49.7	31.5	28.2	25.4	10.3	5.9	3.6	3.8	5.9	0.3
	70歳以上	423	62.9	50.8	41.1	32.2	27.4	23.9	15.4	5.9	5.0	5.0	2.4	1.4
職業別	農林漁業	126	61.9	55.6	41.3	31.0	38.9	19.8	17.5	4.8	5.6	2.4	6.3	0.0
	商工業、サービス業、自由業など	208	58.2	61.5	45.7	36.5	30.8	24.0	6.7	6.3	4.8	2.4	6.3	0.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	618	62.3	63.6	46.8	35.6	24.1	20.4	6.6	3.9	5.2	3.2	6.3	0.5
	主婦・主夫	390	70.0	54.6	49.2	31.0	29.0	23.8	8.7	5.4	2.6	4.4	4.4	0.5
	無職	310	57.1	52.9	41.0	34.8	26.1	23.9	12.6	7.7	7.4	6.5	2.9	1.9
圏域別	高松圏域	825	61.9	57.9	44.7	35.3	24.4	22.5	9.0	6.1	5.9	4.7	5.8	0.7
	東讃圏域	150	59.3	58.0	42.7	36.0	29.3	24.0	10.7	3.3	2.0	5.3	2.7	2.7
	小豆圏域	59	55.9	57.6	50.8	32.2	30.5	22.0	11.9	5.1	6.8	3.4	6.8	0.0
	中讃圏域	428	63.8	58.6	47.7	33.2	31.1	21.0	8.2	5.1	5.6	2.6	4.9	0.0
	西讃圏域	236	61.9	59.7	43.2	29.7	28.8	23.7	10.6	4.2	2.1	2.5	4.7	1.3
居住年数別	3年未満	108	56.5	70.4	47.2	33.3	25.0	25.0	4.6	1.9	7.4	3.7	6.5	0.0
	3年以上～10年未満	232	61.2	62.9	49.6	34.5	30.6	21.1	5.6	3.9	4.3	4.3	5.2	0.4
	10年以上～20年未満	255	60.0	62.7	47.5	32.9	23.9	17.3	7.8	7.8	5.9	5.1	6.3	0.8
	20年以上	1,076	63.7	55.3	43.8	34.5	28.1	23.6	10.6	5.5	4.6	3.5	4.9	0.7

### (3) 子育て支援施策の中で重要だと思う施策

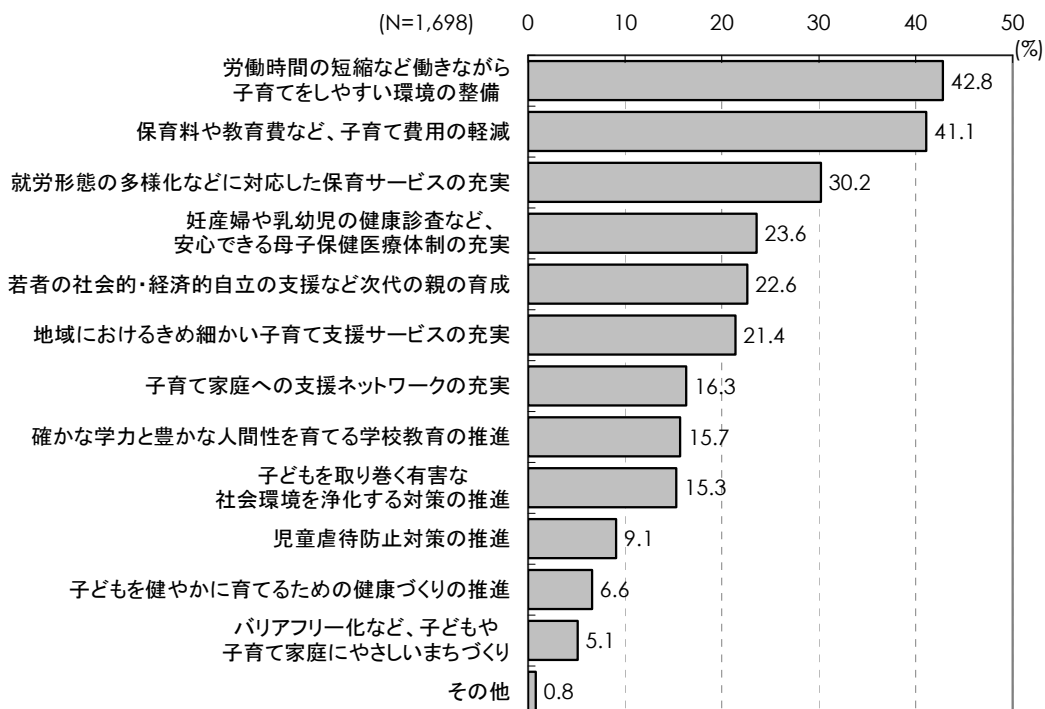
問8 (1) 以下の具体的な子育て支援施策について、あなたが、最も重要だと思う施策を、次の中からそれぞれ3つまで選んで回答欄に番号を記入してください。

[回答者数=1,698]

1	労働時間の短縮など働きながら子育てをしやすい環境の整備	42.8%
2	保育料や教育費など、子育て費用の軽減	41.1%
3	就労形態の多様化などに対応した保育サービスの充実	30.2%
4	妊産婦や乳幼児の健康診査など、安心できる母子保健医療体制の充実	23.6%
5	若者の社会的・経済的自立の支援など次代の親の育成	22.6%
6	地域におけるきめ細かい子育て支援サービスの充実	21.4%
7	子育て家庭への支援ネットワークの充実	16.3%
8	確かな学力と豊かな人間性を育てる学校教育の推進	15.7%
9	子どもを取り巻く有害な社会環境を浄化する対策の推進	15.3%
10	児童虐待防止対策の推進	9.1%
11	子どもを健やかに育てるための健康づくりの推進	6.6%
12	バリアフリー化など、子どもや子育て家庭にやさしいまちづくり	5.1%
13	その他	0.8%

子育て支援施策の中で重要だと思う施策については、「労働時間の短縮など働きながら子育てをしやすい環境の整備」が42.8%と4割を超え最も高く、次いで「保育料や教育費など、子育て費用の軽減」が41.1%、「就労形態の多様化などに対応した保育サービスの充実」が30.2%などとなっている。

#### 〈 子育て支援施策の中で重要だと思う施策 〉





性別にみると、『男性』では「保育料や教育費など、子育て費用の軽減」が約4割を占め最も高く、『女性』では「労働時間の短縮など働きながら子育てをしやすい環境の整備」が4割を超え最も高くなっている。

年齢別にみると、『20～29歳』から『40～49歳』では「保育料や教育費など、子育て費用の軽減」が最も高くなっており、そのほかの年齢では「労働時間の短縮など働きながら子育てをしやすい環境の整備」が最も高くなっている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「保育料や教育費など、子育て費用の軽減」が最も高くなっており、そのほかの職業では「労働時間の短縮など働きながら子育てをしやすい環境の整備」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『西讃圏域』では「保育料や教育費など、子育て費用の軽減」が最も高くなっており、そのほかの圏域では「労働時間の短縮など働きながら子育てをしやすい環境の整備」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「保育料や教育費など、子育て費用の軽減」が最も高くなっており、そのほかでは「労働時間の短縮など働きながら子育てをしやすい環境の整備」が最も高くなっている。



#### (4) 子育て支援施策の中で充実度に不満がある施策

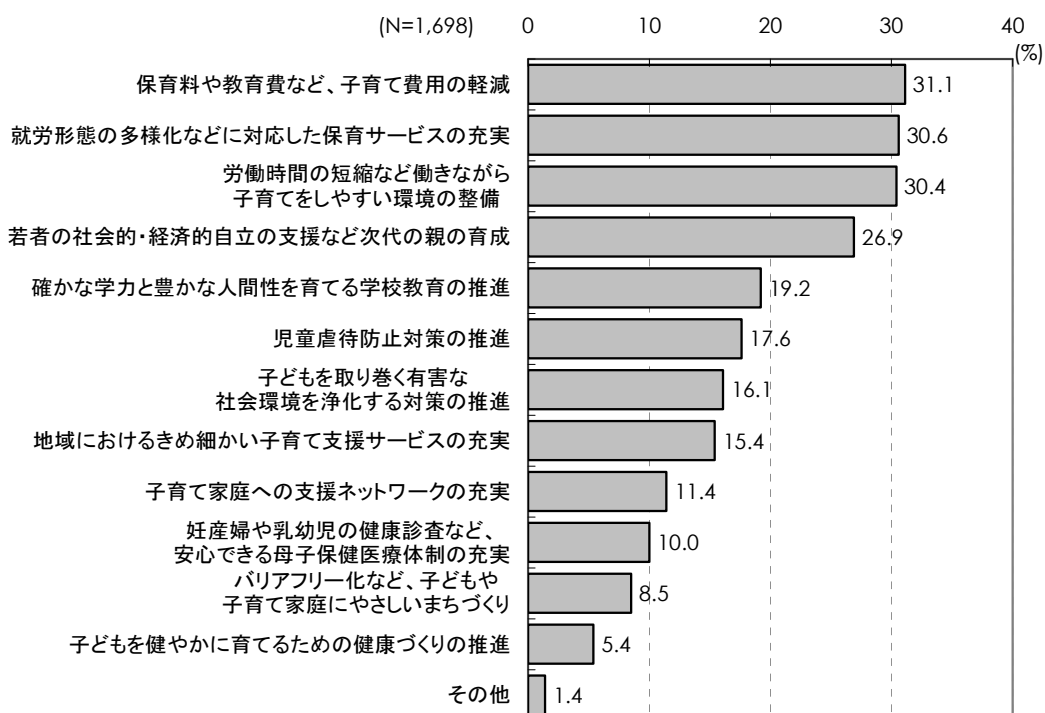
問8 (2) 以下の具体的な子育て支援施策について、あなたが、充実度に不満がある施策を、次の中からそれぞれ3つまで選んで回答欄に番号を記入してください。

[回答者数=1,698]

1	保育料や教育費など、子育て費用の軽減	31.1%
2	就労形態の多様化などに対応した保育サービスの充実	30.6%
3	労働時間の短縮など働きながら子育てをしやすい環境の整備	30.4%
4	若者の社会的・経済的自立の支援など次代の親の育成	26.9%
5	確かな学力と豊かな人間性を育てる学校教育の推進	19.2%
6	児童虐待防止対策の推進	17.6%
7	子どもを取り巻く有害な社会環境を浄化する対策の推進	16.1%
8	地域におけるきめ細かい子育て支援サービスの充実	15.4%
9	子育て家庭への支援ネットワークの充実	11.4%
10	妊産婦や乳幼児の健康診査など、安心できる母子保健医療体制の充実	10.0%
11	バリアフリー化など、子どもや子育て家庭にやさしいまちづくり	8.5%
12	子どもを健やかに育てるための健康づくりの推進	5.4%
13	その他	1.4%

子育て支援施策の中で充実度に不満がある施策については、「保育料や教育費など、子育て費用の軽減」が31.1%と最も高く、次いで「就労形態の多様化などに対応した保育サービスの充実」が30.6%、「労働時間の短縮など働きながら子育てをしやすい環境の整備」が30.4%、「若者の社会的・経済的自立の支援など次代の親の育成」が26.9%などとなっている。

#### 〈 子育て支援施策の中で充実度に不満がある施策 〉



性別にみると、『男性』では「保育料や教育費など、子育て費用の軽減」が3割を超え最も高く、これに「労働時間の短縮など働きながら子育てをしやすい環境の整備」が続いている。『女性』では「就労形態の多様化などに対応した保育サービスの充実」が3割を超え最も高く、これに「保育料や教育費など、子育て費用の軽減」が続いている。

年齢別にみると、『20～29歳』から『40～49歳』では「保育料や教育費など、子育て費用の軽減」が、『50～59歳』、『70歳以上』では「就労形態の多様化などに対応した保育サービスの充実」が、『60～69歳』では「若者の社会的・経済的自立の支援など次代の親の育成」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「若者の社会的・経済的自立の支援など次代の親の育成」が、『商工業、サービス業、自由業など』、『主婦・主夫』では「就労形態の多様化などに対応した保育サービスの充実」が、『会社、商店、官公庁などに勤務』、『無職』では「保育料や教育費など、子育て費用の軽減」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』では「保育料や教育費など、子育て費用の軽減」が、『東讃圏域』、『小豆圏域』では「若者の社会的・経済的自立の支援など次代の親の育成」が、『西讃圏域』では「就労形態の多様化などに対応した保育サービスの充実」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』では「保育料や教育費など、子育て費用の軽減」が最も高くなっており、そのほかでは「就労形態の多様化などに対応した保育サービスの充実」が最も高くなっている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
子育て支援施策の中で充実度に不満がある施策

(単位：%)

		回答者数(人)	保育料や教育費など、子育て費用の軽減	就労形態の多様化などに対応した保育サービスの充実	労働時間の短縮など働きながら子育てをしやすい環境の整備	若者の社会的・経済的自立の支援など次代の親の育成	確かな学力と豊かな人間性を育てる学校教育の推進	児童虐待防止対策の推進	子どもを取り巻く有害な社会環境を浄化する対策の推進	地域におけるきめ細かい子育て支援サービスの充実	子育て家庭への支援ネットワークの充実	妊産婦や乳幼児の健康診査など、安心できる母子保健医療体制の充実	子育て家庭にやさしいまちづくり	健康づくりの推進	子どもを健やかに育てるための健康づくりの推進	その他
全体		1,698	31.1	30.6	30.4	26.9	19.2	17.6	16.1	15.4	11.4	10.0	8.5	5.4	1.4	
性別	男性	758	31.5	29.2	31.0	25.1	17.7	16.0	14.6	16.2	13.6	11.9	8.2	6.2	1.2	
	女性	910	31.2	32.2	30.2	28.6	20.7	19.2	17.5	14.7	9.7	8.5	9.0	4.7	1.5	
年齢別	20～29歳	123	46.3	31.7	40.7	21.1	21.1	23.6	11.4	12.2	8.9	15.4	12.2	8.1	1.6	
	30～39歳	223	43.5	39.0	40.8	21.5	18.4	14.8	11.2	12.1	13.0	12.6	10.8	5.4	1.8	
	40～49歳	249	41.0	35.7	39.0	27.3	19.3	17.3	17.3	11.6	10.4	9.6	8.4	2.4	1.6	
	50～59歳	262	27.9	35.9	30.5	34.0	21.0	17.2	17.6	19.5	15.3	11.8	11.8	3.8	1.5	
	60～69歳	390	26.2	27.9	26.4	31.5	21.0	18.2	20.8	19.0	12.1	9.2	8.2	7.4	1.5	
	70歳以上	423	22.0	23.2	21.0	22.5	16.5	18.0	14.4	14.4	8.7	7.1	5.0	5.4	0.7	
職業別	農林漁業	126	23.0	26.2	26.2	27.0	21.4	17.5	20.6	15.1	7.9	7.1	7.9	7.1	2.4	
	商工業、サービス業、自由業など	208	32.2	35.6	30.3	26.9	19.2	19.7	18.8	16.8	12.5	12.0	7.7	7.2	1.9	
	会社、商店、官公庁などに勤務	618	35.9	33.2	35.6	29.3	21.0	16.8	14.7	14.7	13.4	11.5	11.0	5.8	1.6	
	主婦・主夫	390	27.7	29.7	29.2	28.5	20.5	17.4	19.5	15.6	11.3	8.2	8.7	2.8	1.3	
	無職	310	31.0	27.7	24.8	21.6	14.2	19.7	12.6	16.1	8.4	10.0	5.2	6.1	0.3	
圏域別	高松圏域	825	32.5	31.3	30.7	25.5	20.2	18.4	17.7	14.7	11.4	8.8	9.2	5.0	1.3	
	東讃圏域	150	20.0	24.0	26.7	28.0	16.7	13.3	18.7	16.7	9.3	13.3	7.3	5.3	2.0	
	小豆圏域	59	22.0	22.0	27.1	37.3	13.6	20.3	16.9	11.9	8.5	6.8	5.1	5.1	0.0	
	中讃圏域	428	35.3	32.5	33.4	28.3	18.7	19.6	14.0	18.0	12.9	11.7	8.9	5.1	1.2	
	西讃圏域	236	28.0	30.9	27.1	26.3	19.5	13.1	12.3	13.6	10.6	9.3	7.2	7.6	1.7	
居住年数別	3年未満	108	39.8	38.0	37.0	25.0	20.4	17.6	16.7	7.4	10.2	12.0	12.0	3.7	0.0	
	3年以上～10年未満	232	41.8	30.6	37.9	30.2	20.7	15.5	13.4	11.2	10.8	10.8	11.2	4.3	2.2	
	10年以上～20年未満	255	35.3	39.6	38.0	23.9	20.0	21.2	14.1	19.6	12.5	13.3	7.5	4.3	2.0	
	20年以上	1,076	27.3	28.2	26.6	27.1	18.7	17.5	17.3	16.1	11.3	8.9	8.0	6.0	1.2	

## (5) 子育てをとりまく環境や施策

問9 現在の子育てをとりまく環境や施策について、あなたはどのように思いますか。

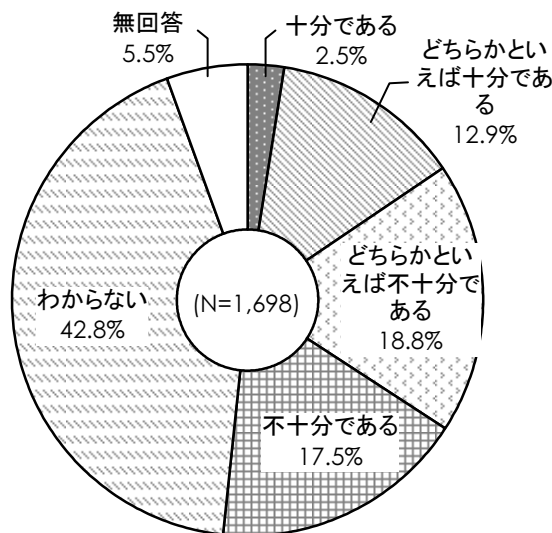
① 身近に子育て支援サービスがある

[回答者数=1,698]

1 十分である	2.5%
2 どちらかといえば十分である	12.9%
3 どちらかといえば不十分である	18.8%
4 不十分である	17.5%
5 わからない	42.8%
(無回答)	5.5%

現在の子育てをとりまく環境や施策として、“身近に子育て支援サービスがある”の状況については、「どちらかといえば不十分である」が18.8%と2割近くを占め、これに「不十分である」の17.5%を合わせた【不十分である】が36.3%と3割を超える。一方、「十分である」が2.5%で、「どちらかといえば十分である」の12.9%を合わせた【十分である】は15.4%と2割未満となっている。

### 〈 “身近に子育て支援サービスがある” の状況について 〉



性別にみると、【不十分である】は『男性』が 39.0%、『女性』が 34.6%と、いずれも 3割を超え、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

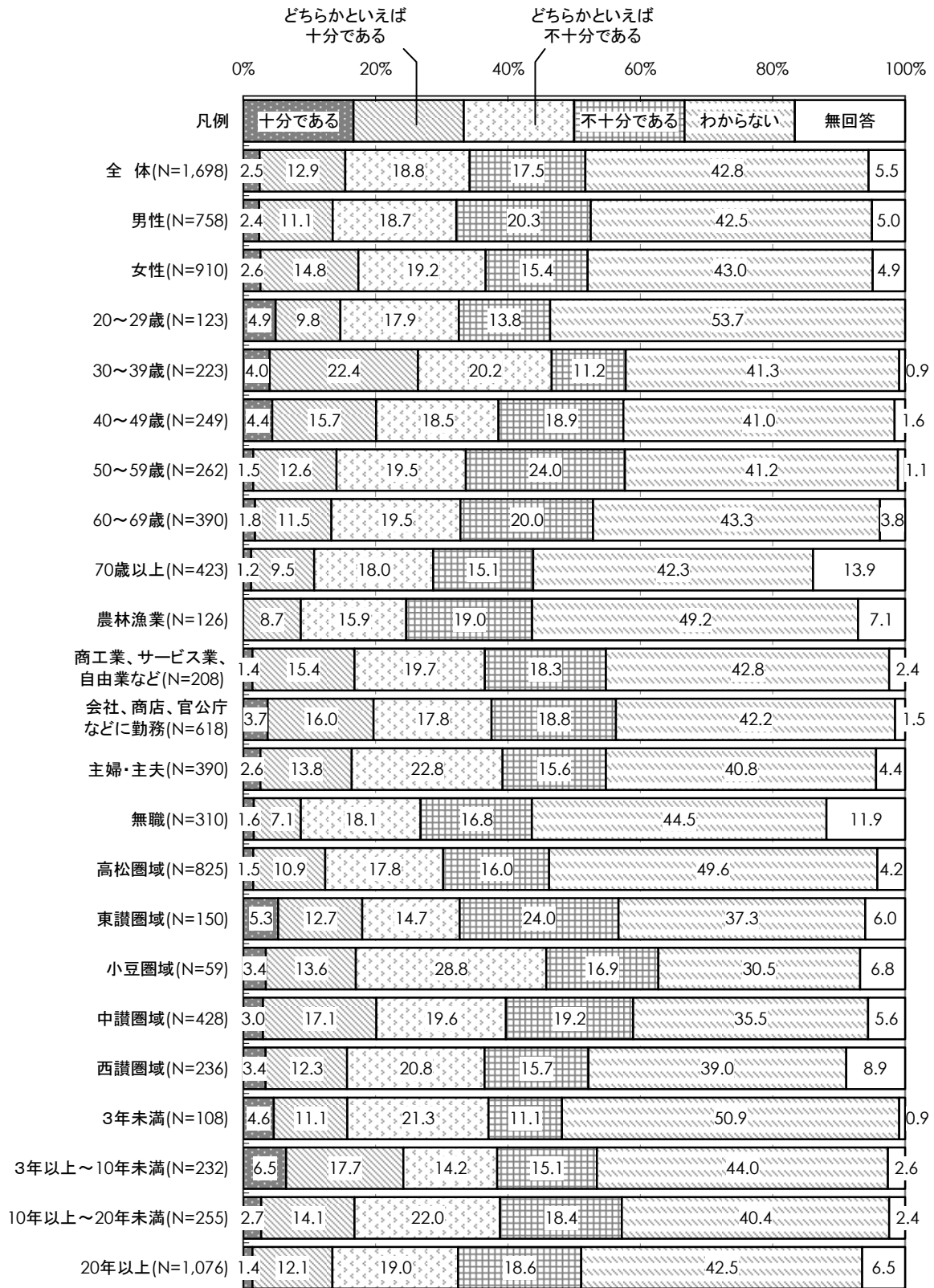
年齢別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『50～59歳』では【不十分である】が 43.5%と 4割を超える。

職業別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

圏域別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に、『小豆圏域』では【不十分である】が 45.7%と 4割を超える。

居住年数別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
 “身近に子育て支援サービスがある”の状況について





問9 現在の子育てをとりまく環境や施策について、あなたはどのように思いますか。

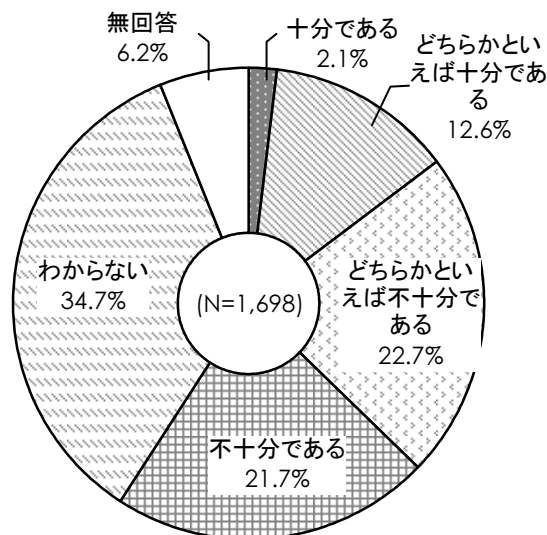
② 子育てについて困ったときに相談したり支えあう体制がある

〔回答者数=1,698〕

1 十分である	2.1%
2 どちらかといえば十分である	12.6%
3 どちらかといえば不十分である	22.7%
4 不十分である	21.7%
5 わからない	34.7%
(無回答)	6.2%

現在の子育てをとりまく環境や施策として、“子育てについて困ったときに相談したり支えあう体制がある”の状況については、「どちらかといえば不十分である」が22.7%と2割を超え、これに「不十分である」の21.7%を合わせた【不十分である】が44.4%と4割を超える。一方、「十分である」が2.1%で、「どちらかといえば十分である」の12.6%を合わせた【十分である】は14.7%と2割未満となっている。

〈 “子育てについて困ったときに相談したり支えあう体制がある”の状況について 〉



性別にみると、【不十分である】は『男性』が 47.5%、『女性』が 42.3%と、いずれも 4 割を超え、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

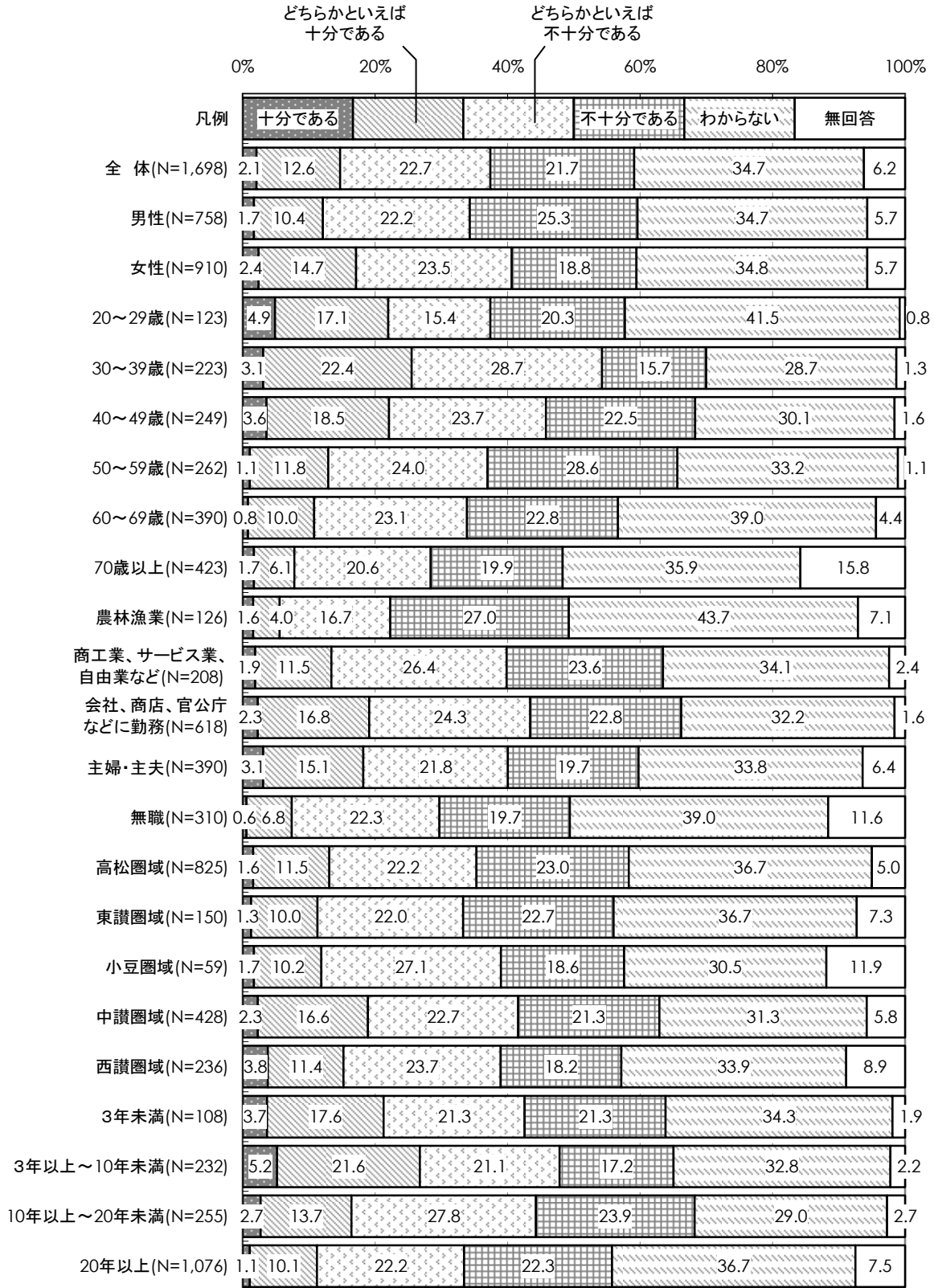
年齢別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『50～59 歳』では【不十分である】が 52.6%と半数を超える。

職業別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『商工業、サービス業、自由業など』では【不十分である】が 50.0%と半数を占める。

圏域別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
 “子育てについて困ったときに相談したり支えあう体制がある” の状況について



問9 現在の子育てをとりまく環境や施策について、あなたはどのように思いますか。

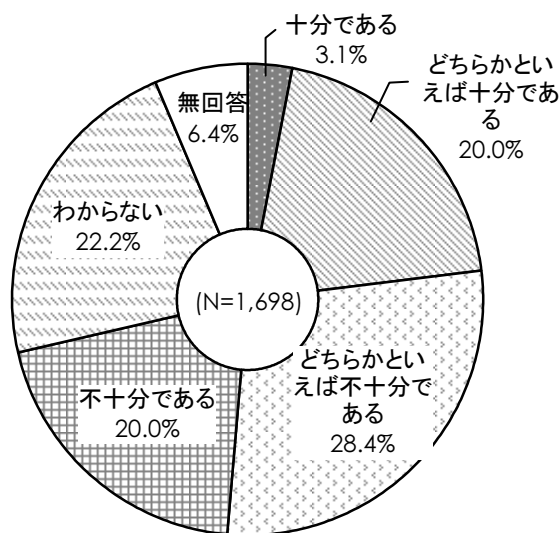
③ 子どもや子育て家庭にやさしい生活環境である

〔回答者数=1,698〕

1 十分である	3.1%
2 どちらかといえば十分である	20.0%
3 どちらかといえば不十分である	28.4%
4 不十分である	20.0%
5 わからない	22.2%
(無回答)	6.4%

現在の子育てをとりまく環境や施策として、“子どもや子育て家庭にやさしい生活環境である”の状況については、「どちらかといえば不十分である」が28.4%と3割近くを占め最も高く、これに「不十分である」の20.0%を合わせた【不十分である】が48.4%と半数近くを占める。一方、「十分である」が3.1%で、「どちらかといえば十分である」の20.0%を合わせた【十分である】は23.1%と3割未満となっている。

〈 “子どもや子育て家庭にやさしい生活環境である”の状況について 〉



性別にみると、【不十分である】は『男性』が 51.7%、『女性』が 46.3%と、いずれも 4 割を超え、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

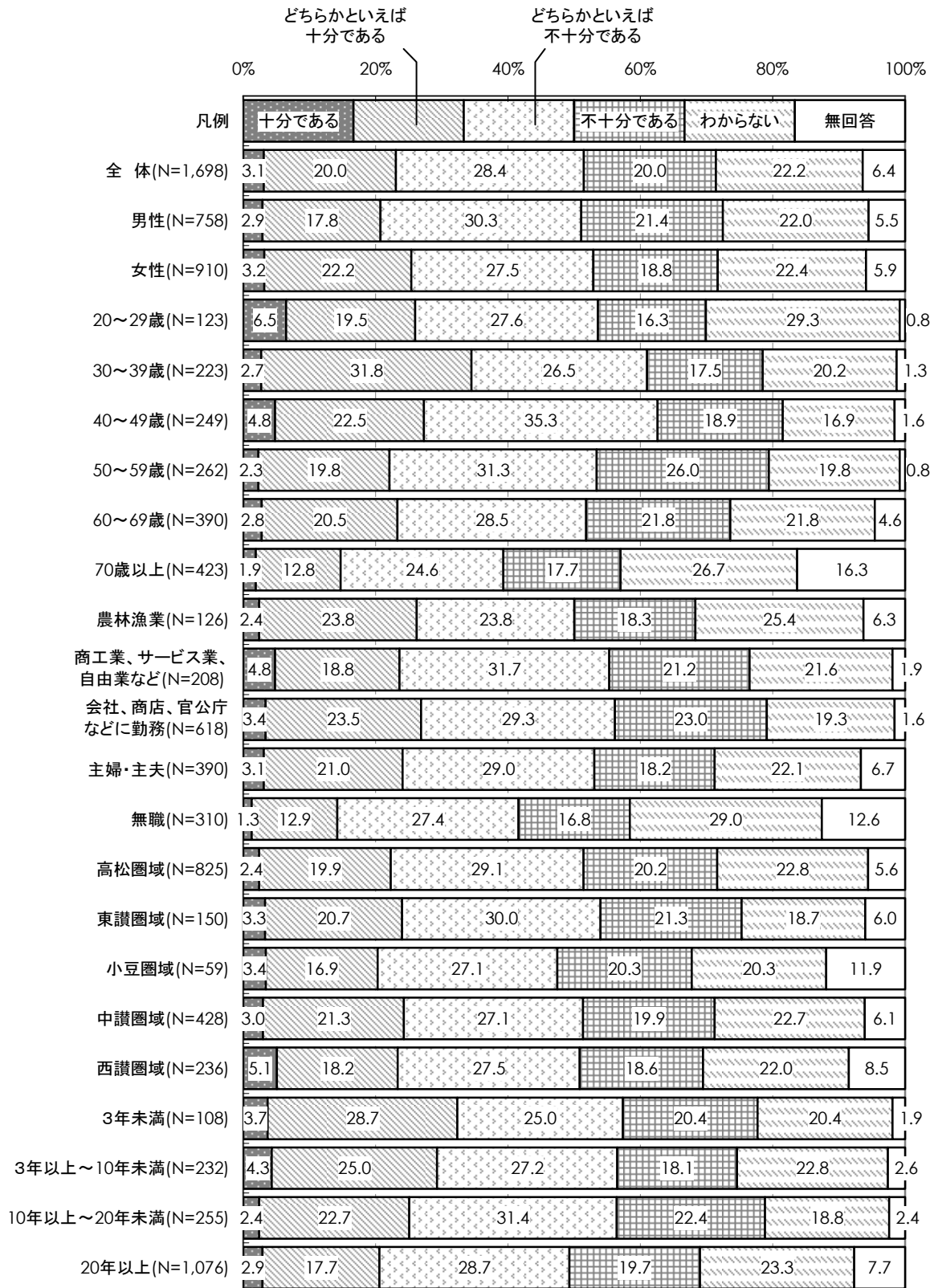
年齢別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『40～49 歳』から『60～69 歳』では【不十分である】が半数を超える。

職業別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不十分である】が半数を超える。

圏域別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『東讚圏域』では【不十分である】が 51.3%と半数を超える。

居住年数別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『10 年以上～20 年未満』では【不十分である】が 53.8%と半数を超える。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
 “子どもや子育て家庭にやさしい生活環境である”の状況について



問9 現在の子育てをとりまく環境や施策について、あなたはどのように思いますか。

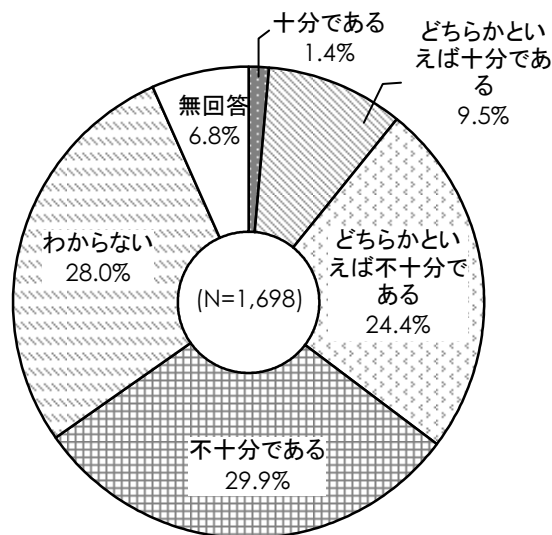
④ 働き方やライフスタイルに応じた保育サービスを受けられる

〔回答者数=1,698〕

1 十分である	1.4%
2 どちらかといえば十分である	9.5%
3 どちらかといえば不十分である	24.4%
4 不十分である	29.9%
5 わからない	28.0%
(無回答)	6.8%

現在の子育てをとりまく環境や施策として、“働き方やライフスタイルに応じた保育サービスを受けられる”の状況については、「不十分である」が29.9%と約3割を占め最も高く、これに「どちらかといえば不十分である」の24.4%を合わせた【不十分である】が54.3%と半数を超える。一方、「十分である」が1.4%で、「どちらかといえば十分である」の9.5%を合わせた【十分である】は10.9%と約1割となっている。

〈 “働き方やライフスタイルに応じた保育サービスを受けられる”の状況について 〉



性別にみると、【不十分である】は『男性』が 56.2%、『女性』が 53.3%と、いずれも半数を超え、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『50～59歳』では【不十分である】が 65.7%と 6割を超える。

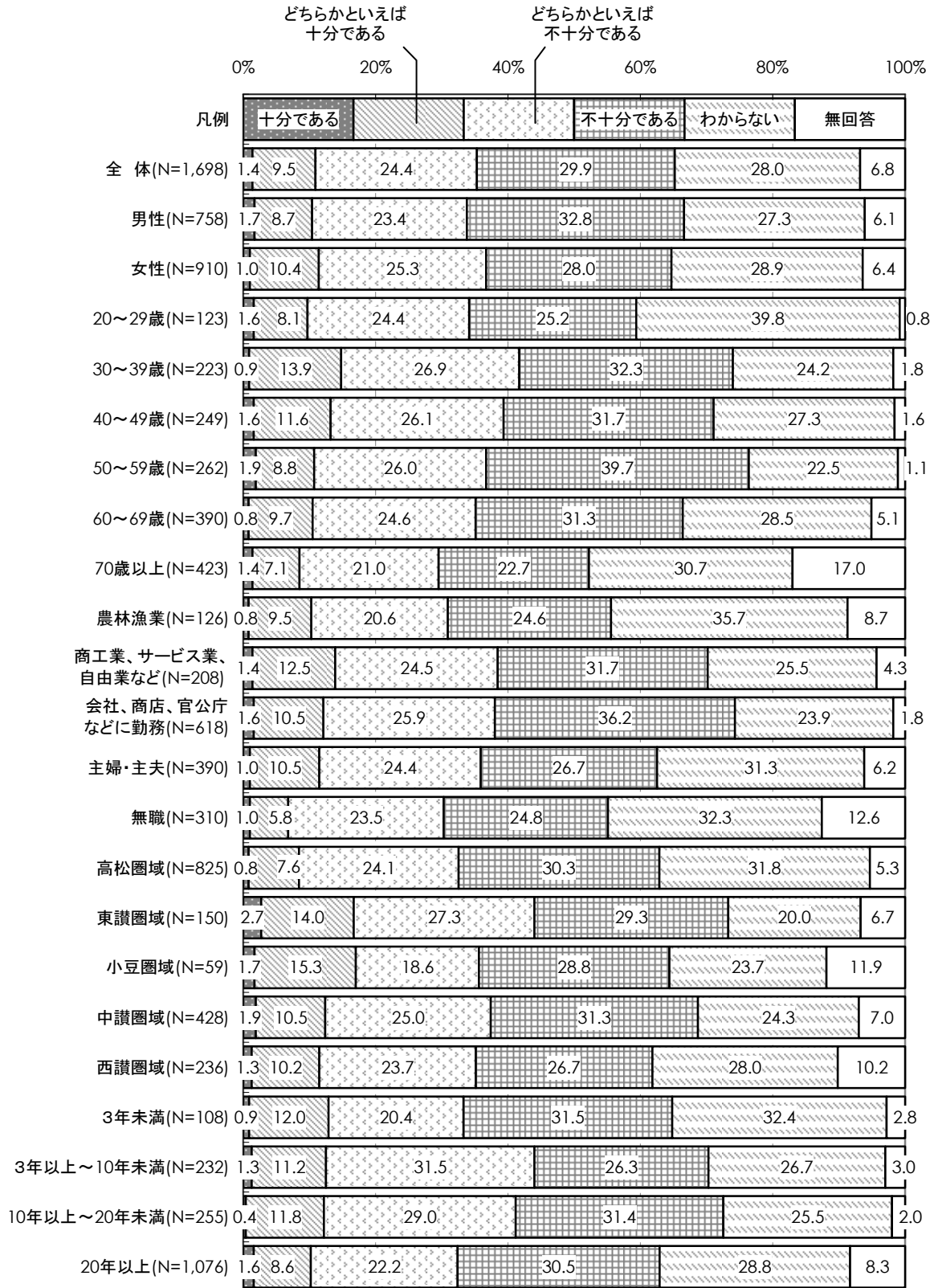
職業別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不十分である】が 62.1%と 6割を超える。

圏域別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。一方で、『東讃圏域』、『小豆圏域』では【十分である】が 15%を超え、そのほかの圏域と比べると、やや高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『10年以上～20年未満』では【不十分である】が 60.4%と 6割を超える。



性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
 “働き方やライフスタイルに応じた保育サービスを受けられる” の状況について



問9 現在の子育てをとりまく環境や施策について、あなたはどのように思いますか。

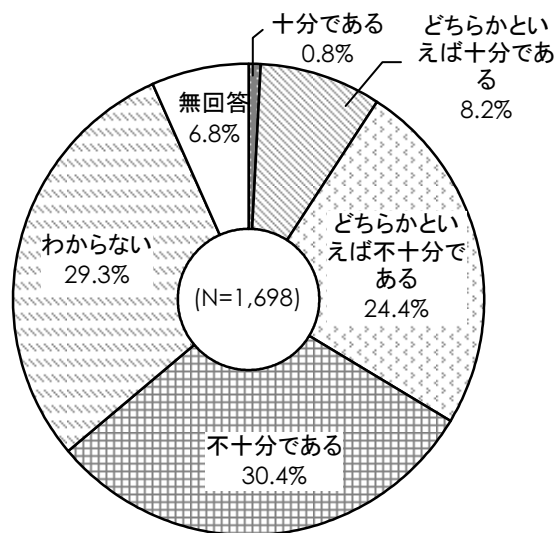
⑤ ワークライフバランス（仕事と生活の調和）が図られている

〔回答者数=1,698〕

1 十分である	0.8%
2 どちらかといえば十分である	8.2%
3 どちらかといえば不十分である	24.4%
4 不十分である	30.4%
5 わからない	29.3%
(無回答)	6.8%

現在の子育てをとりまく環境や施策として、“ワークライフバランス（仕事と生活の調和）が図られている”の状況については、「不十分である」が30.4%と約3割を占め最も高く、これに「どちらかといえば不十分である」の24.4%を合わせた【不十分である】が54.8%と半数を超える。一方、「十分である」が0.8%で、「どちらかといえば十分である」の8.2%を合わせた【十分である】は9.0%と1割未満となっている。

〈 “ワークライフバランス（仕事と生活の調和）が図られている”の状況について 〉



性別にみると、【不十分である】は『男性』が 58.0%、『女性』が 52.5%と、いずれも半数を超え、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

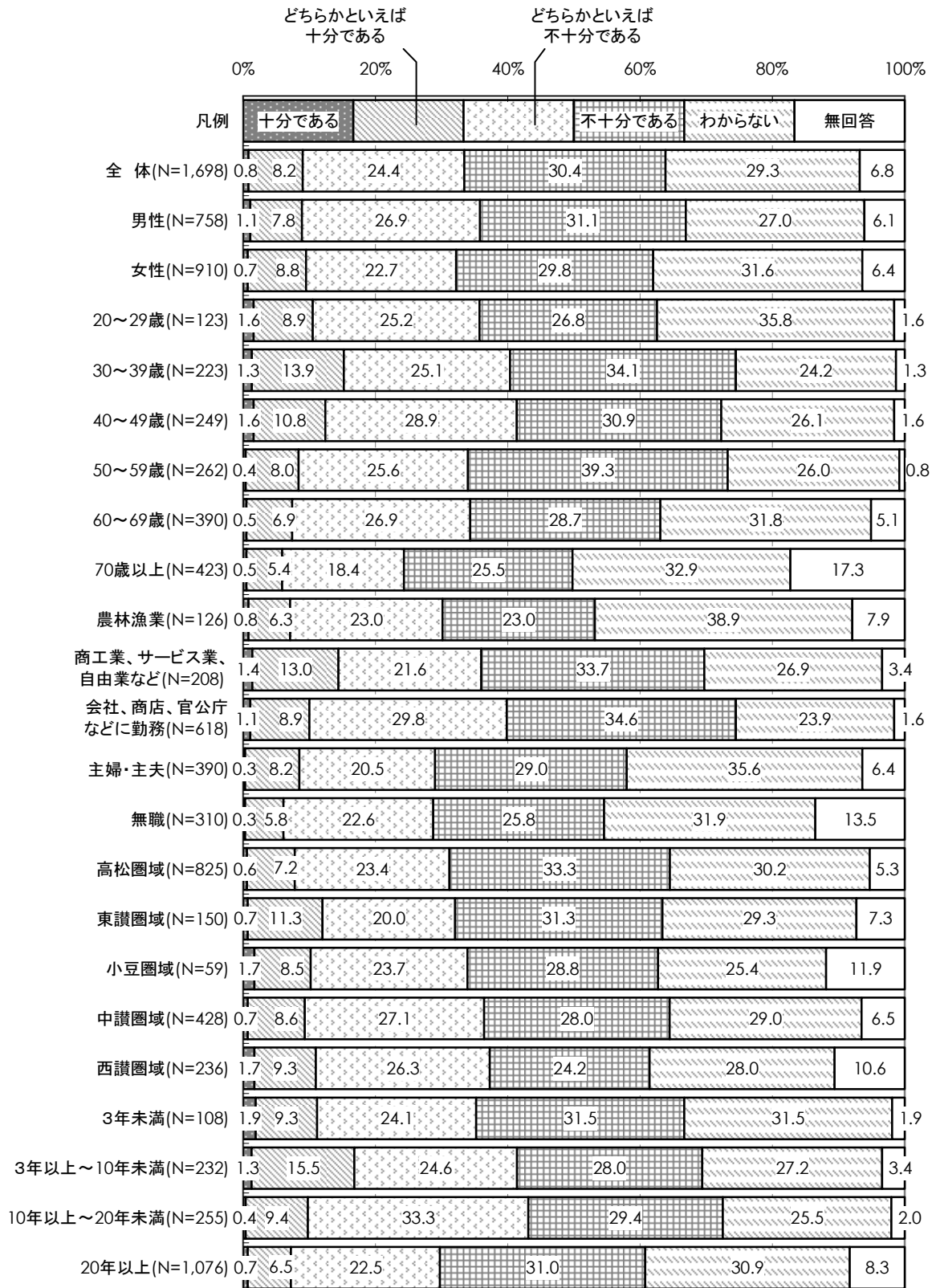
年齢別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『50～59歳』では【不十分である】が 64.9%と 6割を超える。

職業別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不十分である】が 64.4%と 6割を超える。

圏域別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『10年以上～20年未満』では【不十分である】が 62.7%と 6割を超える。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
 “ワークライフバランス（仕事と生活の調和）が図られている” の状況について



問9 現在の子育てをとりまく環境や施策について、あなたはどのように思いますか。

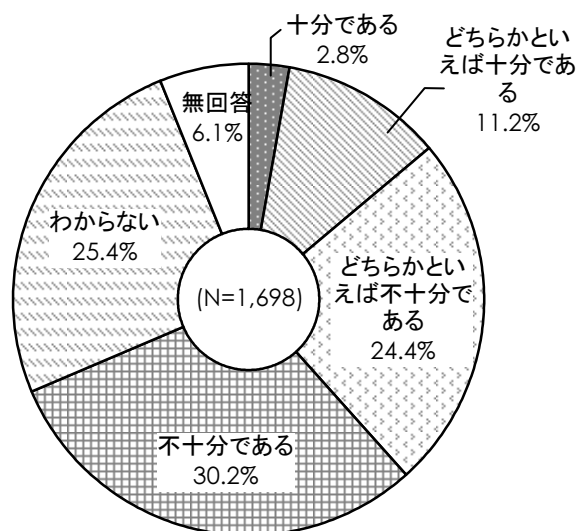
⑥ 子育てにかかる費用について社会的支援がなされている

〔回答者数=1,698〕

1 十分である	2.8%
2 どちらかといえば十分である	11.2%
3 どちらかといえば不十分である	24.4%
4 不十分である	30.2%
5 わからない	25.4%
(無回答)	6.1%

現在の子育てをとりまく環境や施策として、“子育てにかかる費用について社会的支援がなされている”の状況については、「不十分である」が30.2%と約3割を占め最も高く、これに「どちらかといえば不十分である」の24.4%を合わせた【不十分である】が54.6%と半数を超える。一方、「十分である」が2.8%で、「どちらかといえば十分である」の11.2%を合わせた【十分である】は14.0%と2割未満となっている。

〈 “子育てにかかる費用について社会的支援がなされている”の状況について 〉



性別にみると、【不十分である】は『男性』が 58.8%、『女性』が 52.0%と、いずれも半数を超え、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

年齢別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『30～39 歳』から『50～59 歳』では【不十分である】が 6 割を超える。

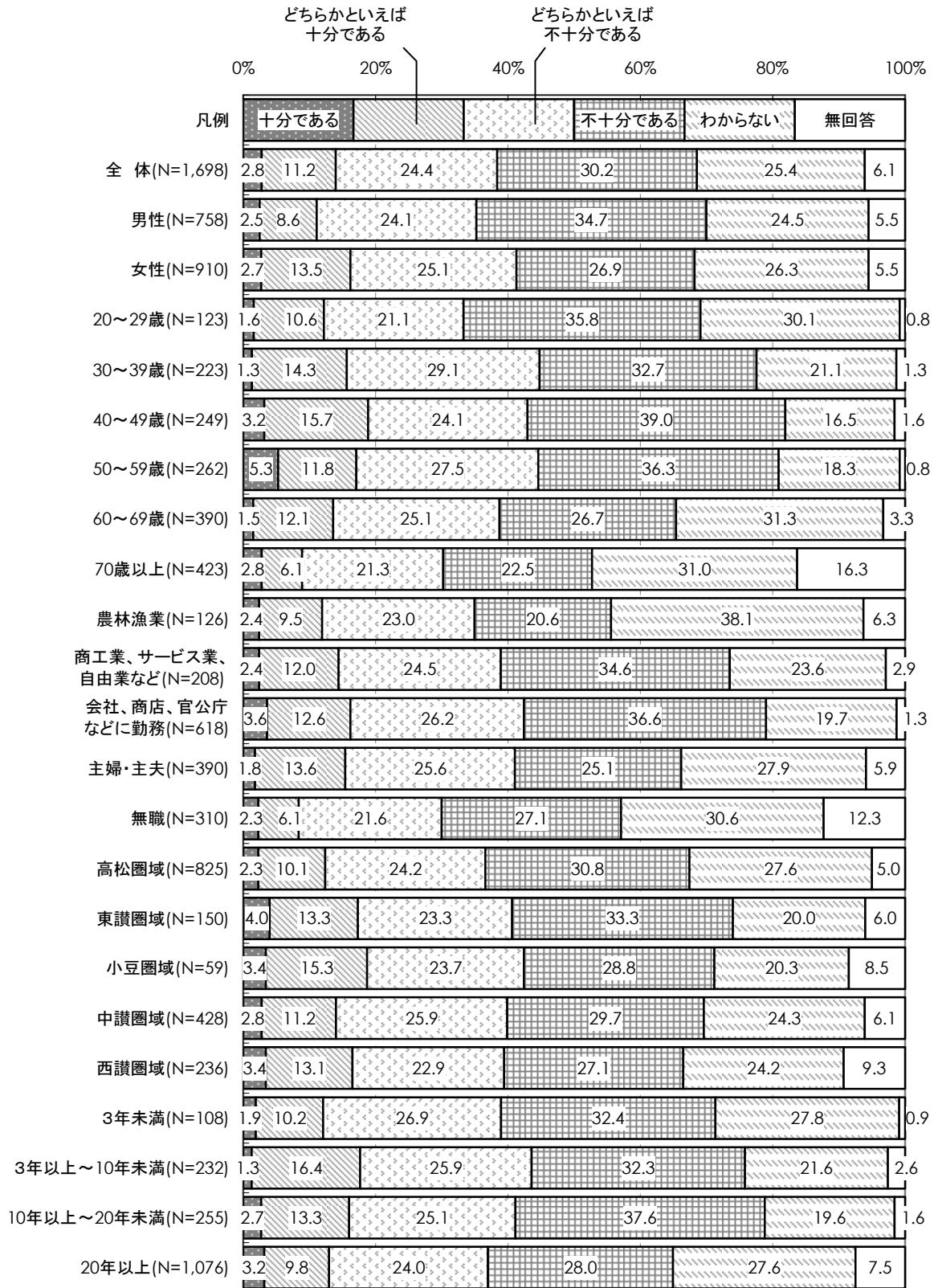
職業別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『会社、商店、官公庁などに勤務』では【不十分である】が 62.8%と 6 割を超える。

圏域別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

居住年数別にみると、いずれも【不十分である】の割合が高く、【不十分である】が【十分である】を上回っている。特に『10 年以上～20 年未満』では【不十分である】が 62.7%と 6 割を超える。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別

“子育てにかかる費用について社会的支援がなされている” の状況について



(6) 子育て・子育てを支える社会を目指していくために地域での充実を期待すること

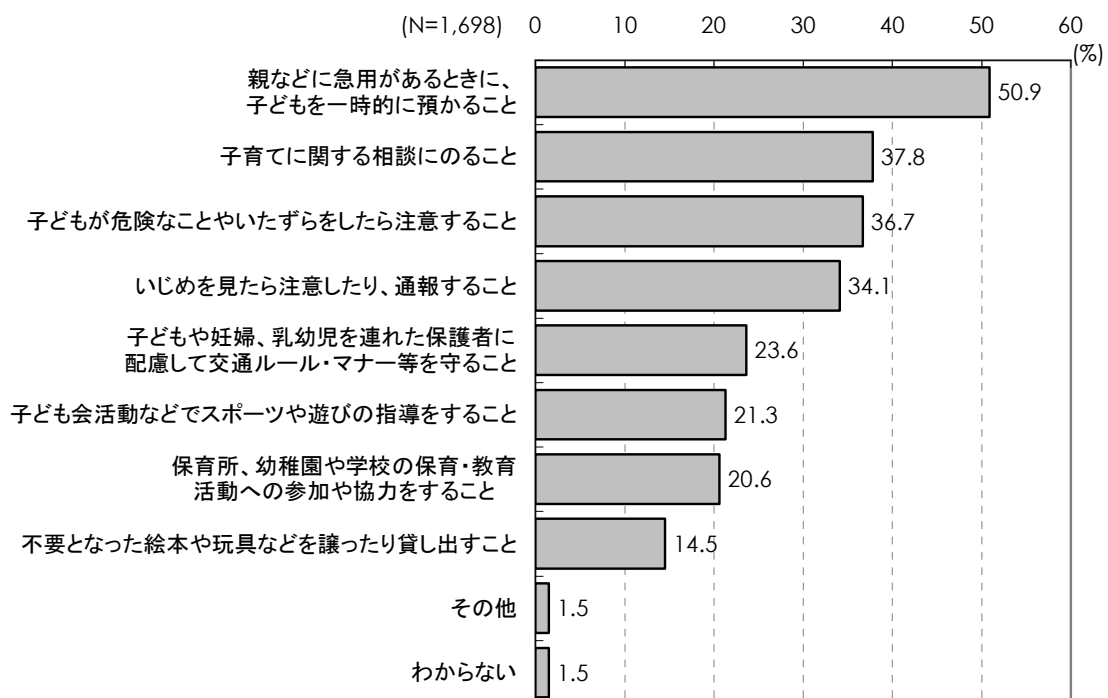
問 10 (1) 社会全体が一体となって子育て・子育てを支える社会を目指していくために、以下の活動について、地域での充実を期待することを次の中からそれぞれ3つまで選んで回答欄に番号を記入してください。

[回答者数=1,698]

1	親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること	50.9%
2	子育てに関する相談にのること	37.8%
3	子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること	36.7%
4	いじめを見たら注意したり、通報すること	34.1%
5	子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること	23.6%
6	子ども会活動などでスポーツや遊びの指導をすること	21.3%
7	保育所、幼稚園や学校の保育・教育活動への参加や協力をすること	20.6%
8	不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出すこと	14.5%
9	その他	1.5%
10	わからない	1.5%

子育て・子育てを支える社会を目指していくために地域での充実を期待することについては、「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」が50.9%と約5割で最も高く、次いで「子育てに関する相談にのること」が37.8%、「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が36.7%、「いじめを見たら注意したり、通報すること」が34.1%などとなっている。

〈 子育て・子育てを支える社会を目指していくために地域での充実を期待すること 〉





性別にみると、男女とも「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」が最も高く、その比率は『男性』が 47.1%、『女性』が 55.4%となっている。これに、『男性』では「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が 36.7%で、『女性』では「子育てに関する相談にのること」が 39.8%で続いている。

年齢別にみると、いずれも「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」が最も高くなっており、特に『30～39歳』では 61.4%と 6割を超える。これに、『20～29歳』では「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」が、『30～39歳』、『40～49歳』では「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が、そのほかの年齢では「子育てに関する相談にのること」が続いている。

職業別にみると、いずれも「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」が最も高くなっており、特に『会社、商店、官公庁などに勤務』では 59.4%と約 6割を占める。これに、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が、そのほかの職業では「子育てに関する相談にのること」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」が最も高くなっており、これに、『中讃圏域』、『西讃圏域』では「子育てに関する相談にのること」が、そのほかの圏域では「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」が最も高くなっている。これに、『3年未満』では「いじめを見たら注意したり、通報すること」が、『20年以上』では「子育てに関する相談にのること」が、そのほかでは「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別

子育て・子育てを支える社会を目指していくために地域での充実を期待すること

(単位：%)

		回答者数(人)	親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること	子育てに関する相談にのること	子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること	いじめを見たら注意したり、通報すること	子どもや妊婦、乳幼児を連れて保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること	子ども会活動などでスポーツや遊びの指導をすること	保育所、幼稚園や学校の保育・教育活動への参加や協力をすること	不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出すこと	その他	わからない
全体		1,698	50.9	37.8	36.7	34.1	23.6	21.3	20.6	14.5	1.5	1.5
性別	男性	758	47.1	35.6	36.7	33.8	23.4	22.0	21.2	15.4	1.8	2.0
	女性	910	55.4	39.8	37.0	34.7	23.8	21.0	20.2	14.1	1.2	1.0
年齢別	20～29歳	123	59.3	31.7	38.2	35.8	39.0	20.3	19.5	19.5	0.0	2.4
	30～39歳	223	61.4	29.6	46.2	36.8	30.9	15.7	17.9	14.8	2.2	0.4
	40～49歳	249	56.2	35.3	44.6	37.8	22.9	20.1	19.3	12.9	2.8	1.6
	50～59歳	262	58.8	44.7	32.4	33.2	19.5	24.4	23.3	17.6	1.1	1.1
	60～69歳	390	49.2	45.6	36.2	36.9	22.8	23.8	23.3	12.1	1.0	1.3
	70歳以上	423	38.8	34.3	31.0	28.8	18.9	21.3	19.4	14.9	1.4	1.9
職業別	農林漁業	126	41.3	36.5	34.1	30.2	19.0	26.2	25.4	10.3	1.6	1.6
	商工業、サービス業、自由業など	208	45.7	38.0	43.3	39.9	27.4	22.1	19.7	16.8	2.4	1.0
	会社、商店、官公庁などに勤務	618	59.4	38.8	41.3	36.6	23.3	20.9	19.9	17.6	1.6	0.8
	主婦・主夫	390	53.1	38.5	32.6	34.1	25.1	21.8	23.6	12.1	1.5	1.3
	無職	310	44.5	37.7	32.6	29.4	22.3	20.3	18.1	13.5	0.6	2.9
圏域別	高松圏域	825	51.2	38.8	39.2	35.4	23.4	20.0	20.5	14.7	1.5	1.1
	東讃圏域	150	50.7	31.3	36.7	31.3	21.3	19.3	23.3	14.0	1.3	1.3
	小豆圏域	59	45.8	22.0	39.0	33.9	18.6	22.0	15.3	11.9	1.7	1.7
	中讃圏域	428	51.2	41.1	33.9	37.6	24.1	22.0	22.0	15.0	1.4	2.1
	西讃圏域	236	51.3	36.4	33.1	25.0	25.8	25.4	17.8	14.4	1.7	1.7
居住年数別	3年未満	108	57.4	29.6	41.7	47.2	30.6	21.3	10.2	19.4	0.9	0.0
	3年以上～10年未満	232	56.5	31.5	43.5	39.7	29.7	13.4	15.5	12.9	3.4	1.3
	10年以上～20年未満	255	56.9	39.6	40.4	32.5	22.7	25.1	23.5	16.5	1.6	1.6
	20年以上	1,076	48.6	39.6	34.3	32.2	21.7	22.3	22.1	14.2	1.0	1.6

(7) 子育て・子育てを支える社会を目指していくためにしてみたい(している)こと

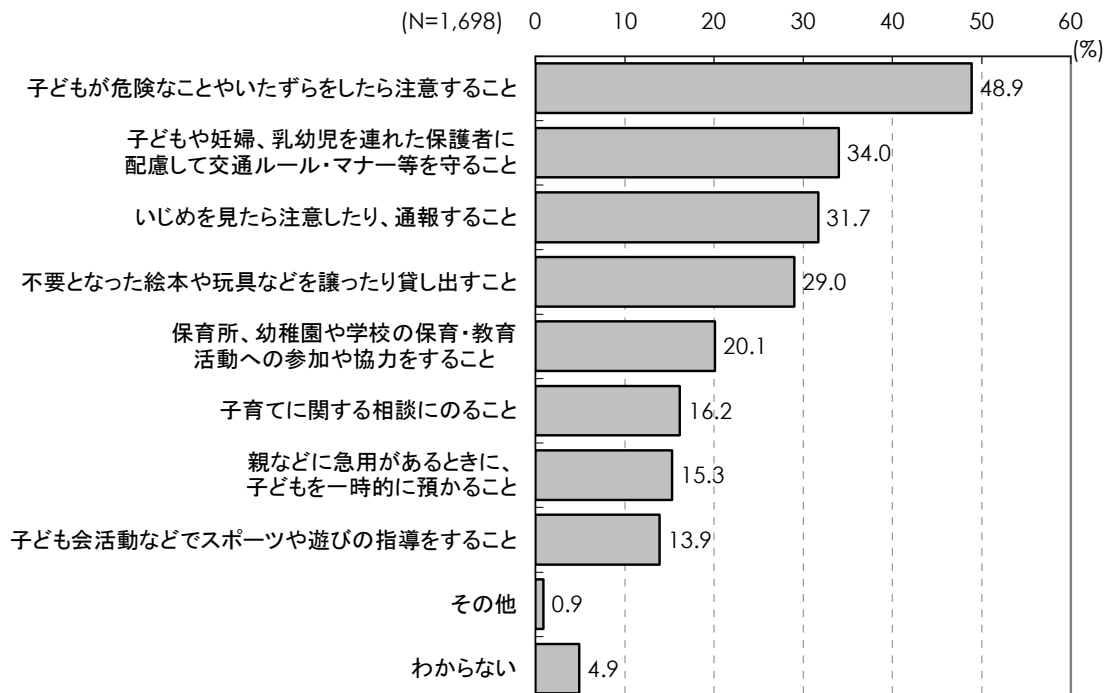
問 10 (2) 社会全体が一体となって子育て・子育てを支える社会を目指していくために、以下の活動について、あなたがしてみたい(している)ことを次の中からそれぞれ3つまで選んで回答欄に番号を記入してください。

[回答者数=1,698]

1	子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること	48.9%
2	子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること	34.0%
3	いじめを見たら注意したり、通報すること	31.7%
4	不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出すこと	29.0%
5	保育所、幼稚園や学校の保育・教育活動への参加や協力をするこ と	20.1%
6	子育てに関する相談にのること	16.2%
7	親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること	15.3%
8	子ども会活動などでスポーツや遊びの指導をすること	13.9%
9	その他	0.9%
10	わからない	4.9%

子育て・子育てを支える社会を目指していくためにしてみたい(している)ことについては、「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が48.9%と5割近くを占め最も高く、次いで「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」が34.0%、「いじめを見たら注意したり、通報すること」が31.7%、「不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出すこと」が29.0%などとなっている。

〈 子育て・子育てを支える社会を目指していくためにしてみたい(している)こと 〉



性別にみると、男女とも「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が最も高く、その比率は『男性』が50.1%、『女性』が48.9%となっている。これに、「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」が『男性』で34.6%、『女性』で34.1%と続いている。

年齢別にみると、いずれも「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が最も高くなっており、特に『60～69歳』では57.7%と6割近くを占める。これに、『60～69歳』、『70歳以上』では「いじめを見たら注意したり、通報すること」が、そのほかの年齢では「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」が続いている。

職業別にみると、いずれも「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が最も高くなっており、これに『農林漁業』では「保育所、幼稚園や学校の保育・教育活動への参加や協力をすること」が、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」が、『主婦・主夫』では「不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出すこと」が、そのほかの職業では「いじめを見たら注意したり、通報すること」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が最も高くなっており、特に『中讃圏域』では53.0%と半数を超える。これに、「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」が続いている。

居住年数別にみると、いずれも「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」が最も高くなっている。これに、『20年以上』では「いじめを見たら注意したり、通報すること」が、そのほかでは「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
子育て・子育てを支える社会を目指していくためにしてみたい（している）こと

（単位：％）

		回答者数（人）	子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること	子どもや妊婦、乳幼児を連れて保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること	いじめを見たら注意したり、通報すること	不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出すこと	保育所、幼稚園や学校の保育・教育活動への参加や協力をすること	子育てに関する相談にのること	親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること	子ども会活動などでスポーツや遊びの指導をすること	その他	わからない
全 体		1,698	48.9	34.0	31.7	29.0	20.1	16.2	15.3	13.9	0.9	4.9
性別	男性	758	50.1	34.6	33.2	23.4	19.0	11.7	11.7	21.9	1.1	5.8
	女性	910	48.9	34.1	30.8	34.0	21.5	20.4	18.5	7.5	0.8	3.7
年齢別	20～29 歳	123	43.9	41.5	29.3	25.2	19.5	11.4	12.2	23.6	2.4	4.9
	30～39 歳	223	49.3	41.7	24.2	31.8	23.8	17.9	8.1	17.9	1.8	6.3
	40～49 歳	249	47.8	39.8	29.7	38.2	28.1	13.7	10.8	17.3	0.8	5.6
	50～59 歳	262	51.5	35.9	33.2	34.7	18.3	21.4	14.1	13.4	0.0	5.0
	60～69 歳	390	57.7	35.6	37.4	24.6	21.0	18.2	20.5	11.5	0.5	4.4
	70 歳以上	423	42.8	23.2	32.2	24.3	14.9	13.9	18.9	10.2	0.9	3.3
職業別	農林漁業	126	50.0	24.6	25.4	23.8	27.0	15.1	24.6	15.1	0.8	3.2
	商工業、サービス業、自由業など	208	48.6	32.2	38.5	27.9	23.1	20.7	14.4	15.9	1.0	4.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	618	50.8	41.4	32.5	30.3	21.4	17.5	11.7	18.4	1.3	5.0
	主婦・主夫	390	51.8	32.1	32.3	34.1	21.3	19.0	19.0	4.9	0.3	3.6
	無職	310	45.5	29.7	30.0	24.5	13.5	10.0	15.8	15.8	1.0	6.5
圏域別	高松圏域	825	47.5	35.3	32.4	30.7	21.0	17.2	15.4	14.2	0.8	4.8
	東讃圏域	150	48.0	32.7	31.3	28.0	16.0	16.0	18.0	10.0	0.0	4.7
	小豆圏域	59	39.0	30.5	25.4	28.8	10.2	11.9	13.6	10.2	1.7	6.8
	中讃圏域	428	53.0	35.3	34.3	29.4	20.6	16.1	15.9	15.4	0.5	4.7
	西讃圏域	236	49.6	28.8	26.3	22.9	21.6	14.0	12.7	13.6	2.1	5.1
居住年数別	3 年未満	108	45.4	41.7	27.8	38.0	25.0	13.9	6.5	18.5	1.9	2.8
	3 年以上～10 年未満	232	49.6	38.4	25.9	29.7	23.3	15.9	15.1	18.1	1.3	6.0
	10 年以上～20 年未満	255	51.4	39.6	33.3	32.9	20.4	18.4	12.2	16.9	0.0	5.1
	20 年以上	1,076	49.3	31.5	33.4	27.2	19.2	16.4	17.1	12.1	0.9	4.5

## (8) 育児をしながら働き続けるために必要だと思う条件・制度

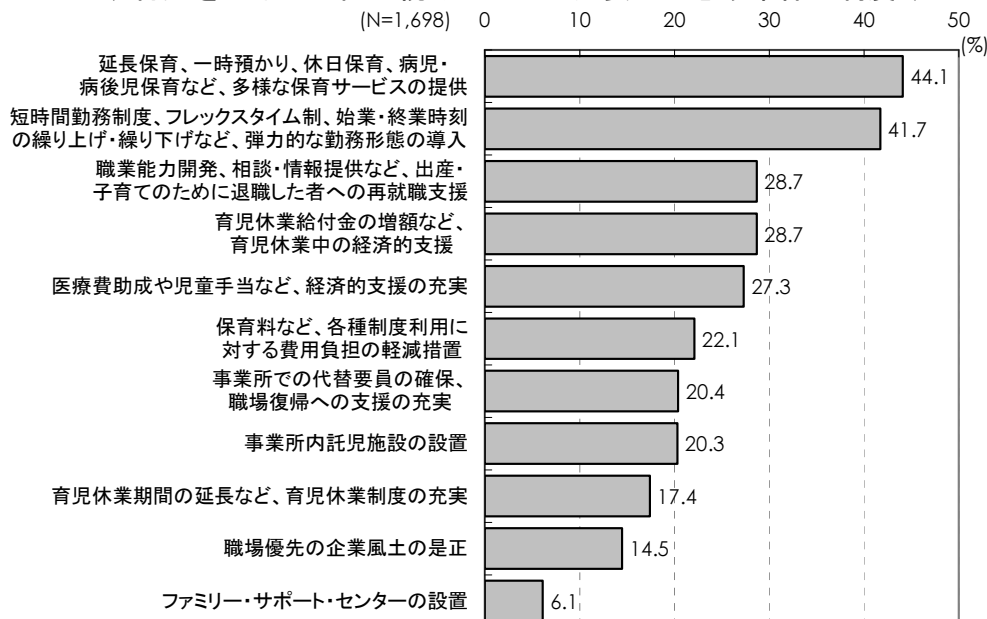
問 11 あなたは、育児をしながら働き続けるためには、どのような条件や制度が必要と思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[回答者数=1,698]

1 延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供	44.1%
2 短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入	41.7%
3 職業能力開発、相談・情報提供など、出産・子育てのために退職した者への再就職支援	28.7%
4 育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援	28.7%
5 医療費助成や児童手当など、経済的支援の充実	27.3%
6 保育料など、各種制度利用に対する費用負担の軽減措置	22.1%
7 事業所での代替要員の確保、職場復帰への支援の充実	20.4%
8 事業所内託児施設の設置	20.3%
9 育児休業期間の延長など、育児休業制度の充実	17.4%
10 職場優先の企業風土の是正	14.5%
11 ファミリー・サポート・センターの設置	6.1%

育児をしながら働き続けるために必要だと思う条件・制度については、「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」が44.1%と4割を超え最も高く、次いで「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」が41.7%、「職業能力開発、相談・情報提供など、出産・子育てのために退職した者への再就職支援」及び「育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援」が28.7%などとなっている。

### 〈 育児をしながら働き続けるために必要だと思う条件・制度 〉



性別にみると、『男性』では「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」が最も高く、『女性』では「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」が最も高くなっている。

年齢別にみると、『20～29歳』から『40～49歳』では「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」が最も高く、そのほかの年齢では「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」が最も高く、そのほかの職業では「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」が最も高くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』では「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」が、『小豆圏域』では「育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援」が、そのほかの圏域では「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」が最も高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」が最も高く、これに「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」が続いている。

性別、年齢別、職業別、圏域別、居住年数別  
 育児をしながら働き続けるために必要だと思う条件・制度

(単位：%)

		回答者数(人)	ファミリー・サポート・センターの設置	職場優先の企業風土の是正	育児休業期間の延長など、育児休業制度の充実	事業所内託児施設の設置	事業所での代替要員の確保、職場復帰への支援の充実	保育料など、各種制度利用に対する費用負担の軽減措置	医療費助成や児童手当など、経済的支援の充実	育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援	職業能力開発、相談・情報提供など、出産・子育てのために退職した者への再就職支援	短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入	延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供
全体		1,698	44.1	41.7	28.7	28.7	27.3	22.1	20.4	20.3	17.4	14.5	6.1
性別	男性	758	40.1	41.4	26.1	31.9	31.5	23.4	19.1	16.5	17.9	17.4	5.0
	女性	910	48.2	42.2	31.0	26.0	24.1	21.3	21.5	23.4	16.9	12.2	7.1
年齢別	20～29歳	123	39.0	43.1	22.8	41.5	24.4	36.6	19.5	13.0	22.8	19.5	4.1
	30～39歳	223	41.3	42.6	21.1	36.3	39.5	24.7	15.2	20.6	17.0	20.2	4.0
	40～49歳	249	46.6	47.8	24.9	25.7	30.5	21.7	21.3	16.9	12.9	19.3	6.8
	50～59歳	262	50.4	43.5	30.5	25.2	24.4	22.9	22.1	21.4	16.4	15.3	8.0
	60～69歳	390	52.6	44.4	32.8	22.1	24.6	21.3	22.6	20.8	19.0	11.5	7.9
	70歳以上	423	35.2	34.0	32.6	31.2	25.3	17.3	20.1	23.6	18.0	9.5	4.7
職業別	農林漁業	126	37.3	42.9	38.1	32.5	29.4	16.7	26.2	17.5	16.7	11.9	2.4
	商工業、サービス業、自由業など	208	44.7	36.1	26.9	33.7	28.4	31.3	18.8	17.3	18.8	15.4	7.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	618	46.8	46.1	27.0	29.3	30.9	23.9	18.6	18.6	16.7	17.2	6.3
	主婦・主夫	390	48.7	43.3	30.3	24.1	23.6	18.2	21.8	28.5	16.2	11.3	8.2
	無職	310	37.4	36.1	29.4	29.7	25.8	20.6	21.3	18.1	20.3	14.5	4.5
圏域別	高松圏域	825	42.8	43.2	29.1	26.1	27.6	23.5	20.7	21.0	16.8	14.8	6.9
	東讃圏域	150	44.7	33.3	26.7	33.3	30.7	18.0	22.7	16.7	19.3	14.7	6.0
	小豆圏域	59	37.3	23.7	20.3	39.0	30.5	18.6	16.9	18.6	8.5	11.9	6.8
	中讃圏域	428	46.0	43.5	30.6	29.2	24.8	20.6	19.4	20.8	19.4	14.7	5.8
	西讃圏域	236	46.2	43.2	27.5	31.4	28.0	23.3	20.3	19.5	16.5	13.6	3.8
居住年数別	3年未満	108	47.2	41.7	16.7	24.1	40.7	26.9	18.5	25.0	17.6	19.4	0.9
	3年以上～10年未満	232	44.4	43.1	25.0	28.4	32.8	27.2	19.0	20.3	14.2	16.4	8.6
	10年以上～20年未満	255	48.2	47.5	26.7	25.1	25.9	20.0	22.7	22.0	15.3	12.9	8.6
	20年以上	1,076	43.2	40.3	31.5	30.1	25.6	21.2	20.5	19.6	18.7	14.0	5.6